

## 第6章 県民の「幸せ」感等



## 第6章 県民の「幸せ」感等

本章では、どのようなことが県民に「幸せ」感をもたらしているのか、地域とのつながりや生活状態（くらしむき）、生活価値観などについて「幸せ」感との関連を見ていく。

### 1. 回答者の属性と「幸せ」感（回答者の属性×問1-4）

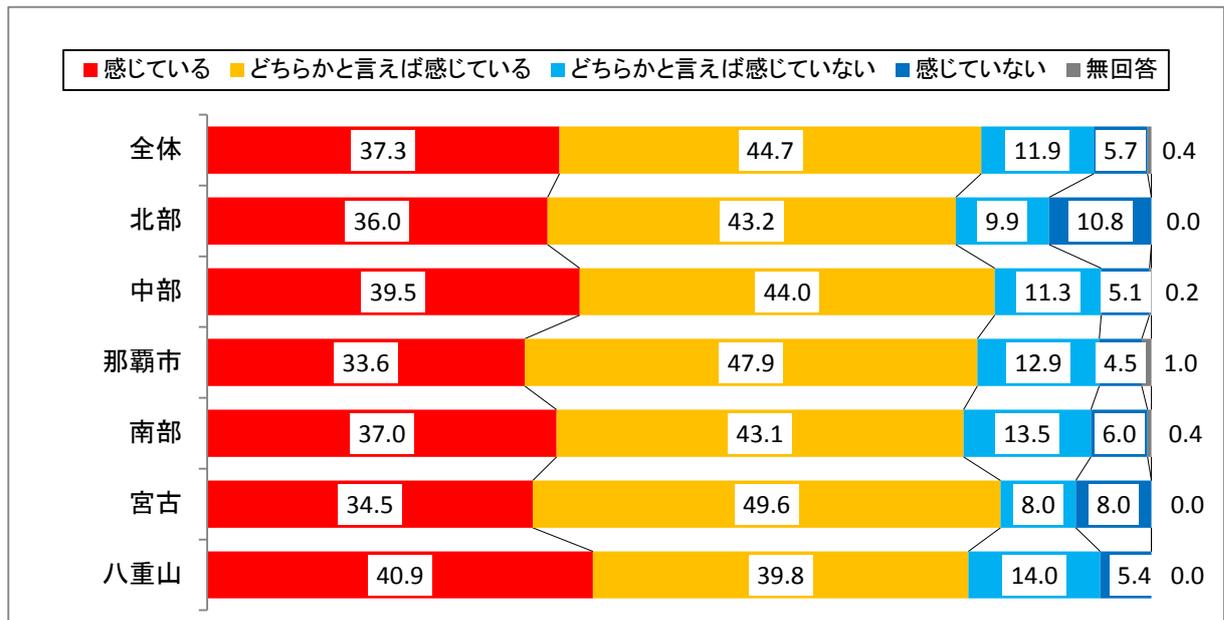
#### (1) 地域別に見る「幸せ」感

「幸せを感じている」及び「どちらかと言えば感じている」と回答した比率の合計は82.0%になり、沖縄県全体の「幸せ」感是非常に高い。

「幸せ」感を地域別に見ると、最も「幸せを感じている」比率が高い地域は八重山（40.9%）で、中部（39.5%）、南部（37.0%）と続く。

一方、「幸せを感じていない」及び「どちらかといえば感じていない」と回答した比率の合計は、北部（20.7%）において最も高い。

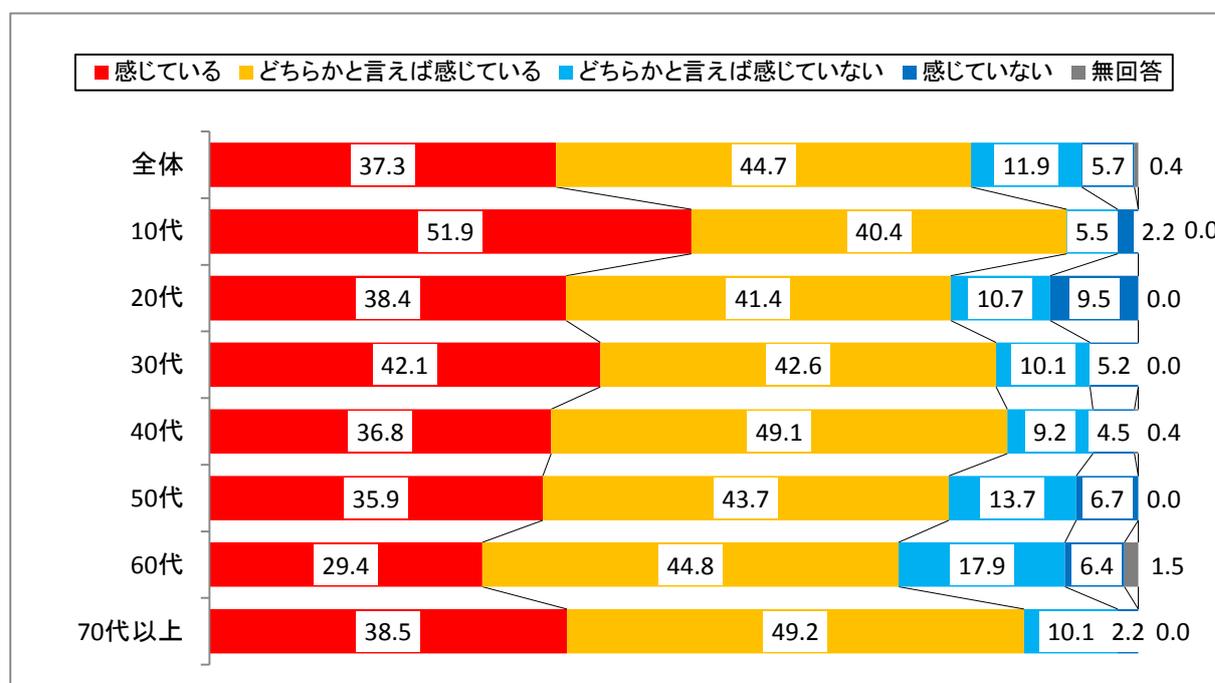
図6-1-1 地域 × 問1-4 あなたは「幸せ」だと感じていますか



## (2) 年代別に見る「幸せ」感

「幸せ」感を年代別に見ると、「幸せ」を感じている比率は10代（51.9%）が最も高く、次いで30代（42.1%）、70代以上（38.5%）と続く。一方、最も比率が低いのは60代（29.4%）となっている。

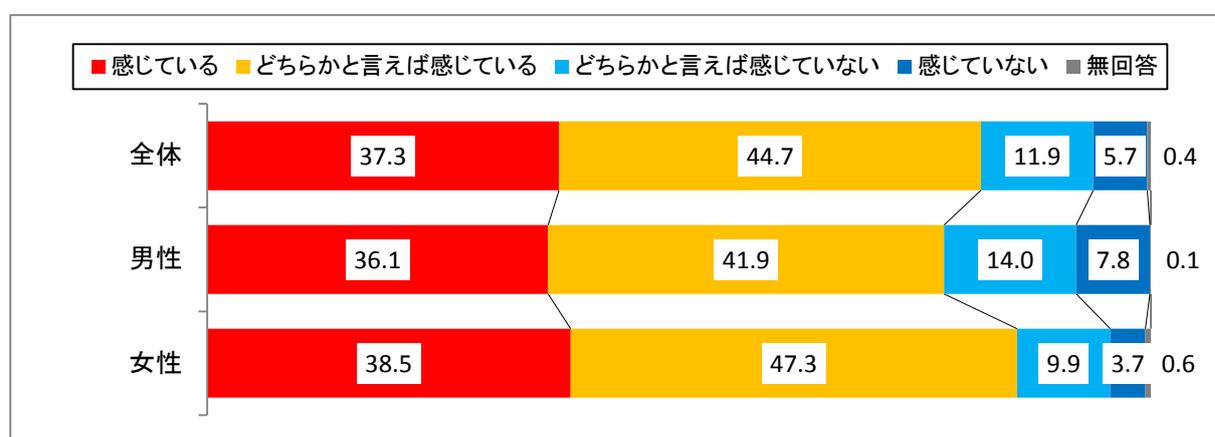
問 6-1-2 年代 × 問 1-4 あなたは「幸せ」だと感じていますか



## (3) 性別に見る「幸せ」感

「幸せ」感を性別で見ると、女性の方が「幸せ」を感じている比率が高く、また「どちらかと言えば感じている」という回答まで含めると女性の方が男性より約8ポイント「幸せ」を感じる比率が高い。

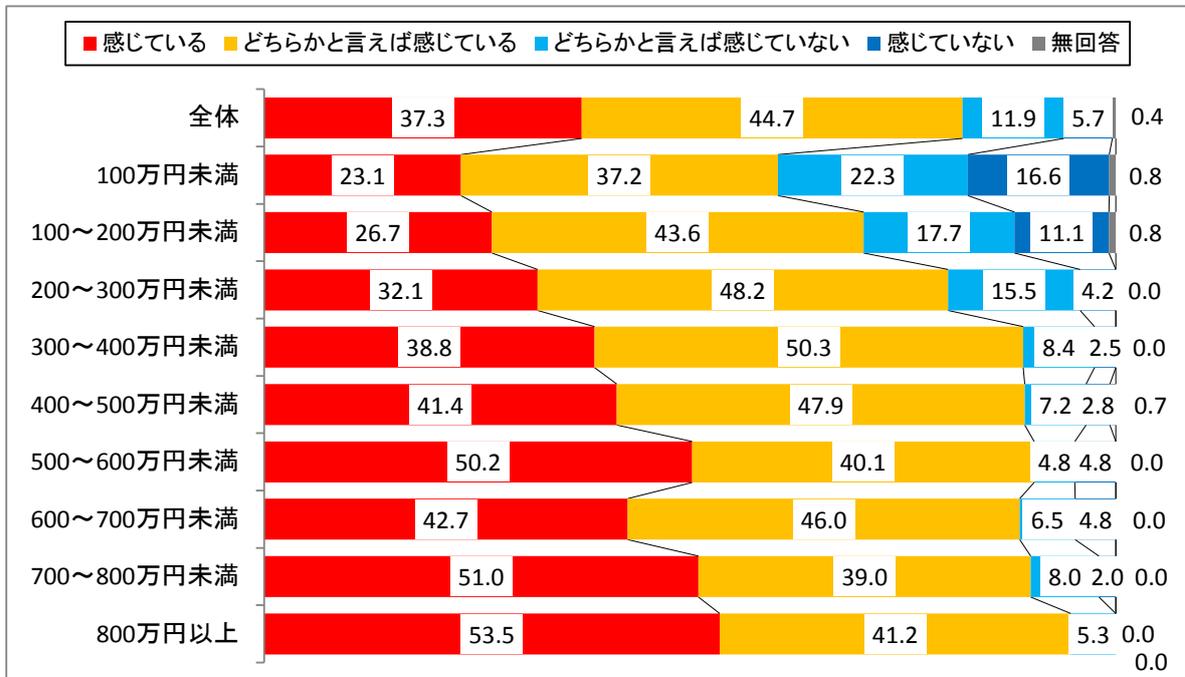
図 6-1-3 男女 × 問 1-4 あなたは「幸せ」だと感じていますか



#### (4) 世帯年収別に見る「幸せ」感

世帯年収別に見ると、「幸せ」と感じている比率は、100万円未満から600万円未満の区分において、世帯収入の区分が100万円増加するごとに「幸せ」感が高くなる傾向が見られる。

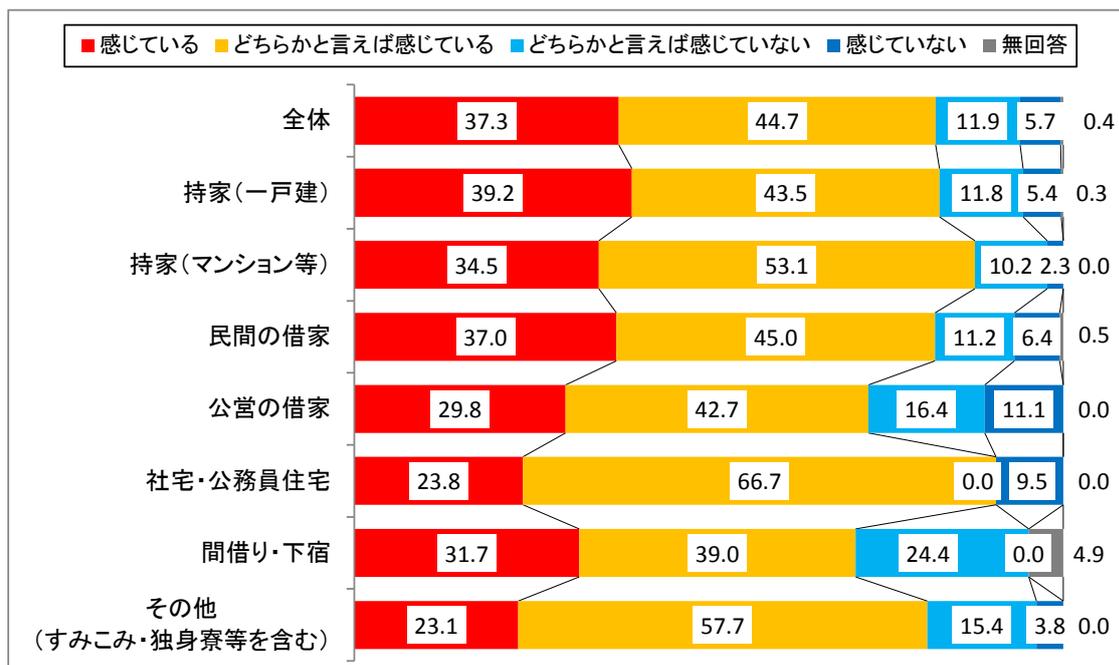
図 6-1-4 世帯年収 × 問 1-4 あなたは「幸せ」だと感じていますか



#### (5) 居住形態別に見る「幸せ」感

居住形態別に見ると、「幸せ」と感じている比率は「持家（一戸建）」（39.2%）が最も高く、続いて「民間の借家」（37.0%）、「持家（マンション等）」（34.5%）が高い。一方、最も比率が低いのは「その他（すみこみ・独身寮等を含む）」（23.1%）となっており、続いて「社宅・公務員住宅」（23.8%）、「公営の借家」（29.8%）、「間借り・下宿」（31.7%）が低い。

図 6-1-5 居住形態 × 問 1-4 あなたは「幸せ」だと感じていますか



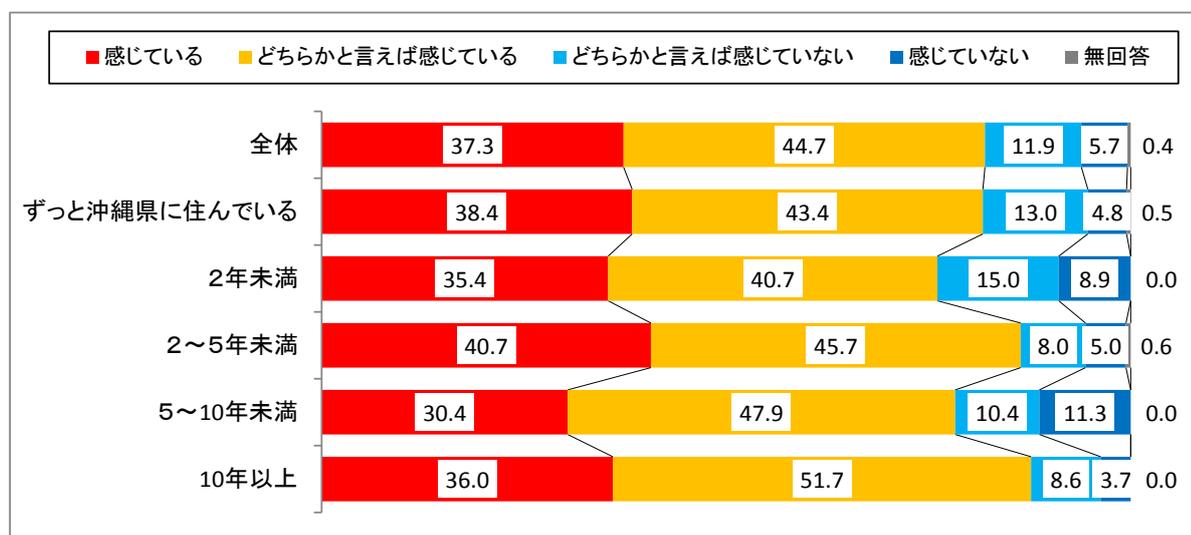
(6) 県外居住の経験と「幸せ」感

県外に居住した経験と「幸せ」感の関連を見ると、「幸せ」を感じている比率が最も高いのは「県外居住2年以上～5年未満」(40.7%)であり、「どちらかといえば感じている」を含めると、「県外居住10年以上」(87.7%)が最も高くなる。逆に最も低いのは「県外居住5年以上～10年未満」(30.4%)である。

ずっと沖縄県に住んでいる人の「幸せ」感は、「どちらかといえば感じている」を含めれば81.8%となっている。

県外居住2年未満の人は「幸せを感じていない」及び「どちらかといえば感じていない」の比率の合計が最も高く、23.9%である。

図 6-1-6 県外居住経験 × 問 1-4 あなたは「幸せ」だと感じていますか

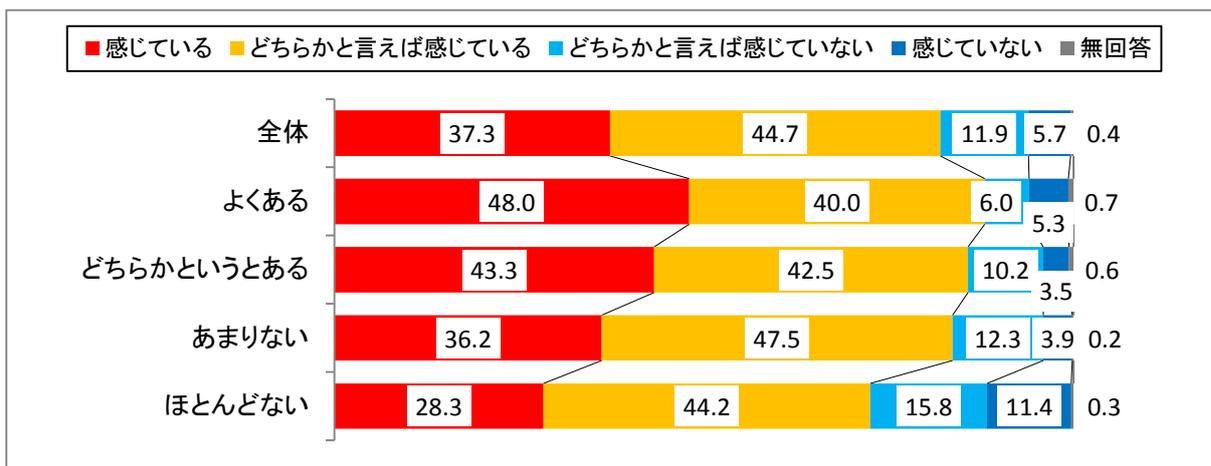


## 2. 地域のつながりと「幸せ」感（問2×問1-4）

### (1) 近隣に住んでいる方との交流の程度と「幸せ」感

近隣に住んでいる方との交流の程度と「幸せ」感との関連を見ると、交流が「よくある」と回答した人が「幸せ」を感じる比率は最も高く、48.0%となっている。一方、「幸せ」を感じる比率が最も低いのは、交流が「ほとんどない」と回答した人で28.3%となっている。交流の機会がある人ほど「幸せ」を感じる比率が高くなっている。

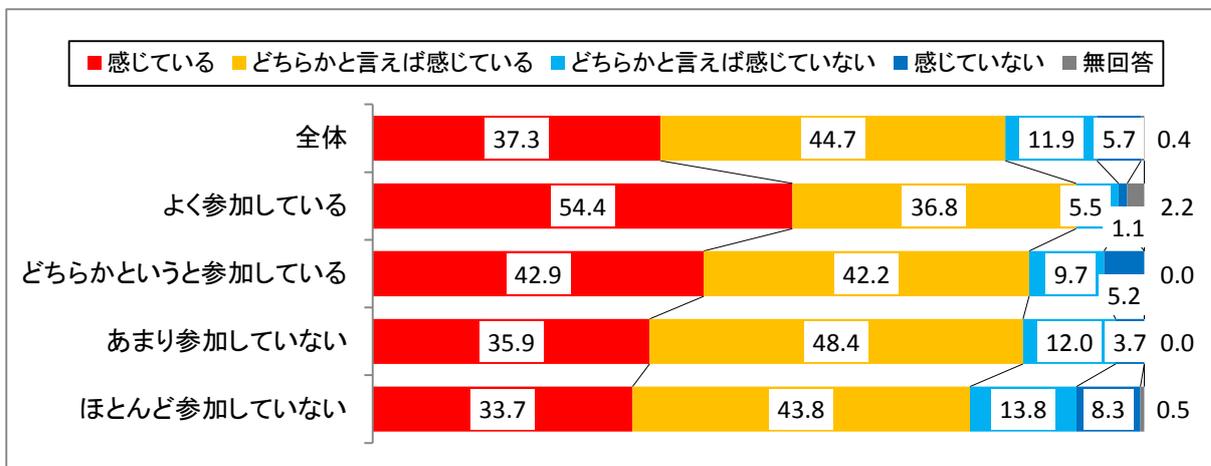
図6-2-1 問2-1-1 近隣に住んでいる方との交流の程度 × 問1-4「幸せ」感



### (2) 地域活動への参加の程度と「幸せ」感

地域活動への参加の程度と「幸せ」感との関連を見ると、地域活動へ「よく参加している」と回答した人が「幸せ」を感じる比率は最も高く、54.4%となっている。一方、「幸せ」を感じる比率が最も低いのは、「ほとんど参加していない」と回答した人で33.7%となっている。地域活動への参加が多い人ほど「幸せ」を感じる比率が高くなっている。

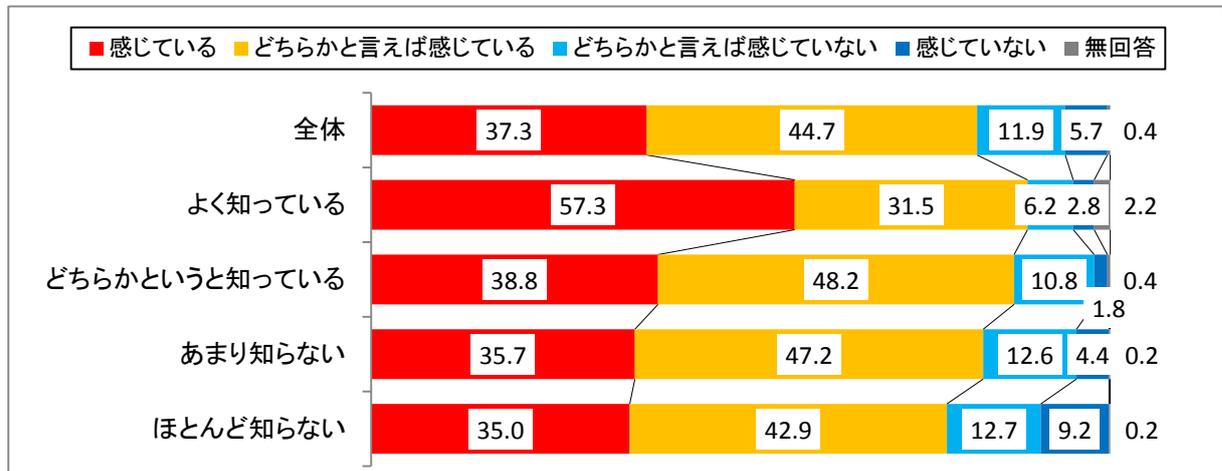
図6-2-2 問2-1-2 地域活動への参加の程度 × 問1-4「幸せ」感



### (3) 困ったときの相談先を知っている程度と「幸せ」感

自分が困っている時に相談できる機関や人をどれくらい知っているか。それらを知っている程度と「幸せ」感との関連を見ると、「よく知っている」という回答をした人ほど「幸せ」であると感じている比率が高い。

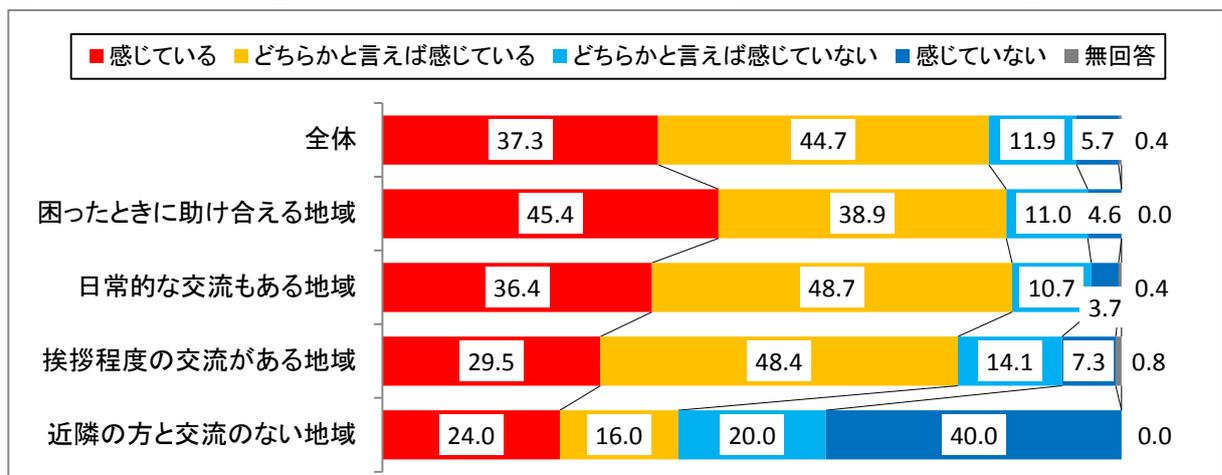
図 6-2-3 問 2-1-3 困ったときの相談先を知っているか × 問 1-4 「幸せ」感



### (4) 地域の交流のあり方に対する希望と「幸せ」感

地域の方たちとどのように交流することを希望しているかということと「幸せ」感との関連を見ると、近隣の方々と「困ったときに助け合えるような地域」を希望している人が「幸せ」を感じている比率が最も高く、45.4%となっている。一方、「幸せ」を感じる比率が最も低いのは「近隣の方と交流のない地域」と回答した人で、24.0%となっている。困ったときに助け合う地域を望む人ほど、「幸せ」を感じる比率が高くなっている。

図 6-2-4 問 2-2 地域の交流のあり方に対する希望 × 問 1-4 「幸せ」感

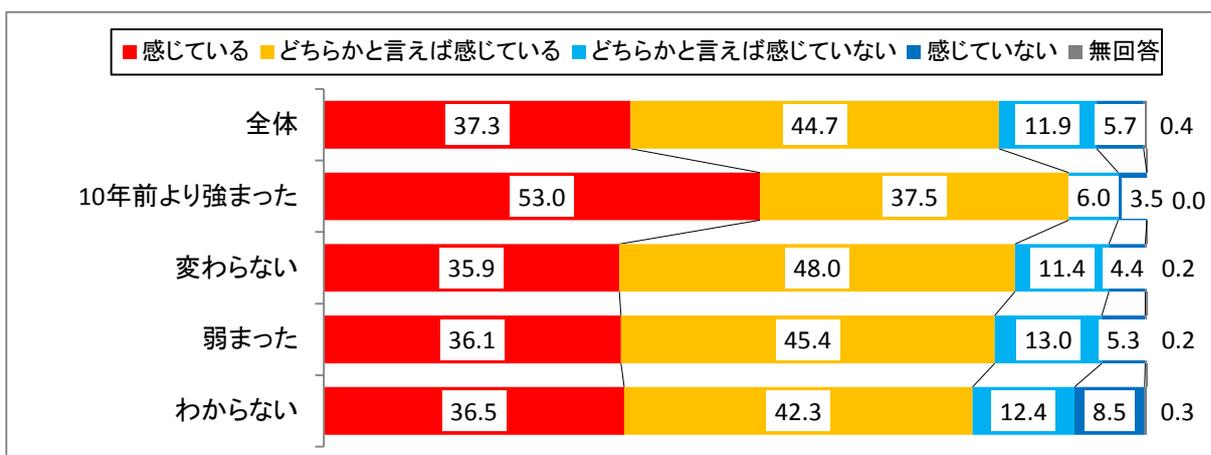


### 3. 県民の自己像と「幸せ」感（問 1-1～17×問 1-4）

#### (1) 人と人のつながりと「幸せ」感

人と人のつながりが 10 年前と比べて強まったと思うかどうかと「幸せ」感との関連を見てみると、「10 年前より強まった」と思う人が「幸せ」を感じている比率は 53.0% と最も高い。一方、「幸せ」を感じる比率が最も低いのは、「変わらない」と回答した人で 35.9% となっている。しかし、「変わらない」と「弱まった」に差はほとんどない。

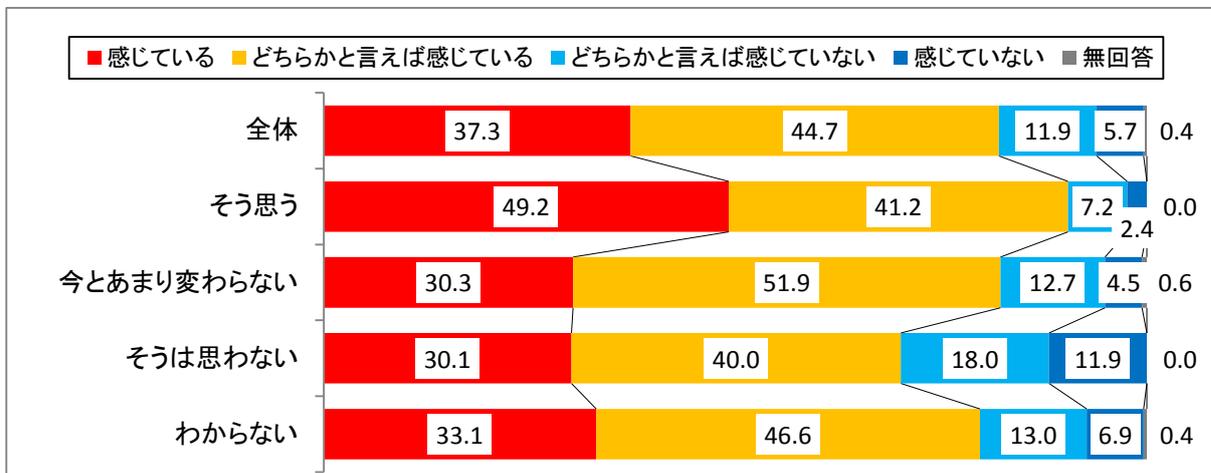
図 6-3-1 問 1-1 人と人のつながり × 問 1-4 「幸せ」感



#### (2) 20 年先の沖縄に対する見通しと「幸せ」感

20 年先の沖縄は現在よりも発展し、輝いていると思うかどうかと「幸せ」感との関連を見ると、「今より発展し、輝いている」と思う人が「幸せ」を感じている比率は 49.2% と最も高い。一方、「幸せ」を感じる比率が最も低いのは、「そうは思わない」と回答した人で 30.1% となっている。しかし、「今とあまり変わらない」と「そうは思わない」に差がほとんどない。

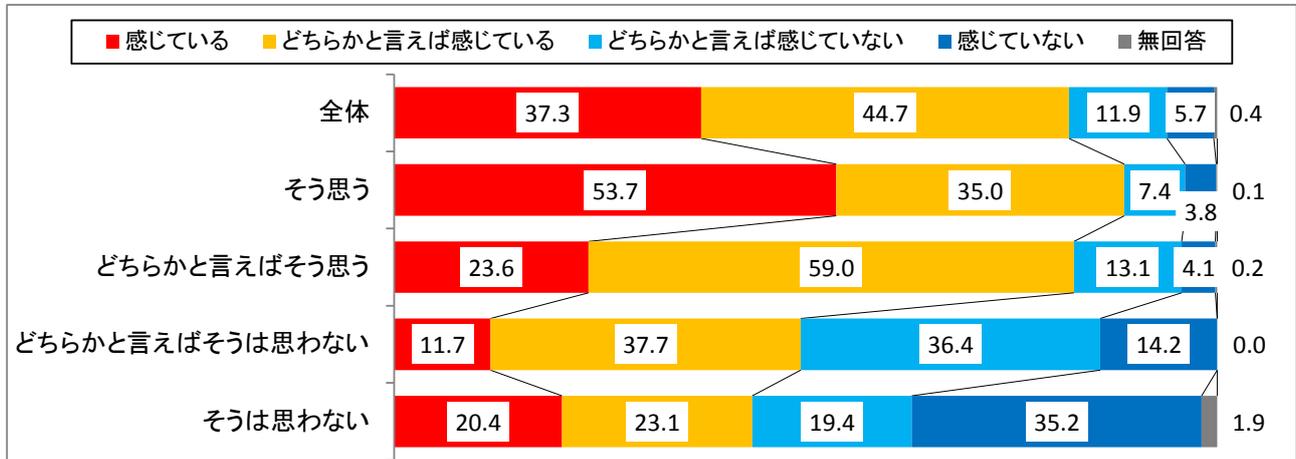
図 6-3-2 問 1-2 20 年先の沖縄に対する見通し × 問 1-4 「幸せ」感



### (3) 努力すれば人生は変わるという考えと「幸せ」感

努力すれば人生は変わると思う人と、そうは思わないと考える人がいる。それらの考えと「幸せ」感との関連を見ると、「努力すれば人生は変わる」と考える人は、そう考えない人よりも30ポイント以上「幸せ」に感じている比率が高い。

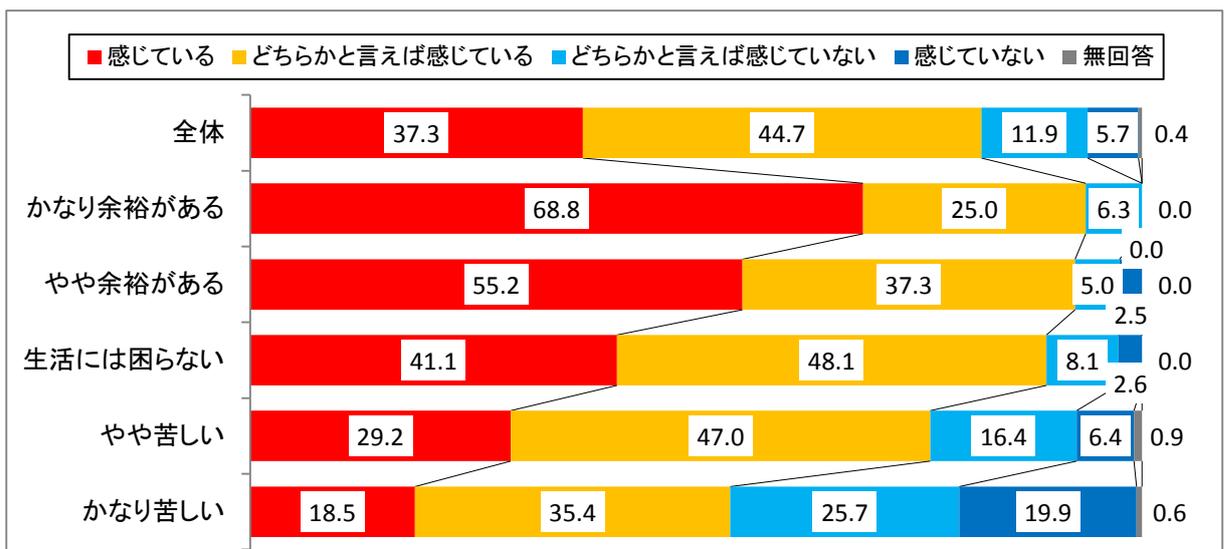
図 6-3-3 問 1-3 努力すれば人生は変わる × 問 1-4 「幸せ」感



### (4) 世帯の経済状況と「幸せ」感

世帯の経済状況と「幸せ」感との関連を見ると、世帯の経済状況に「かなり余裕がある」と回答した人が「幸せ」を感じる比率が最も高く、68.8%となっている。一方、「幸せ」を感じる比率が最も低いのは、世帯の経済状況が「かなり苦しい」と回答した人で18.5%となっている。世帯の経済状況と「幸せ」には一定の相関が見られる。

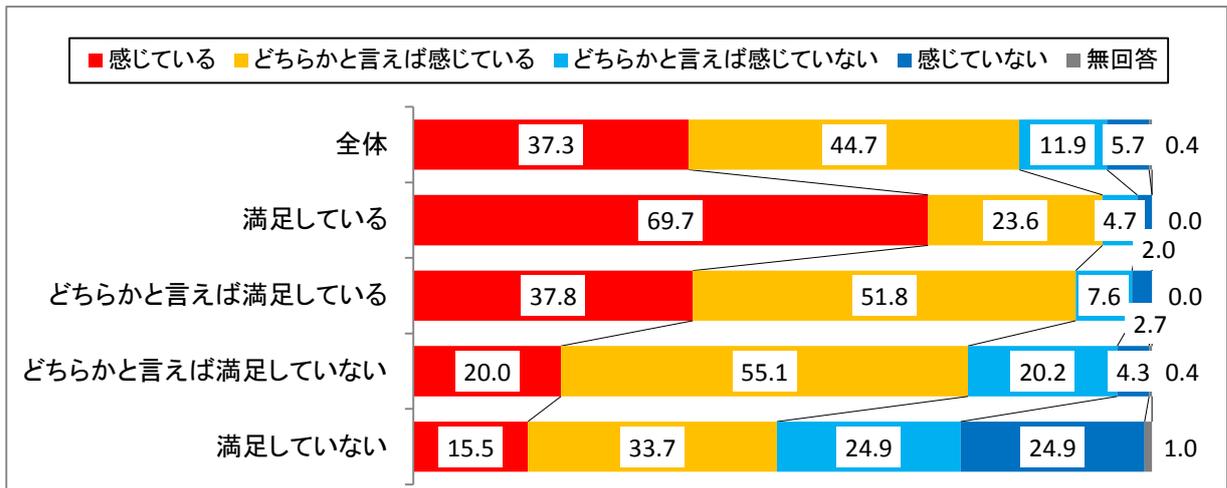
図 6-3-4 問 1-6 世帯の経済状況 × 問 1-4 「幸せ」感



(5) 仕事への満足感と「幸せ」感

現在の仕事への満足感と「幸せ」感との関連を見ると、仕事に「満足している」と回答した人が「幸せ」を感じる比率が最も高く、69.7%となっている。一方、「幸せ」を感じる比率が最も低いのは、仕事に「満足していない」と回答した人で15.5%となっている。仕事への満足感と「幸せ」感には一定の相関が見られる。

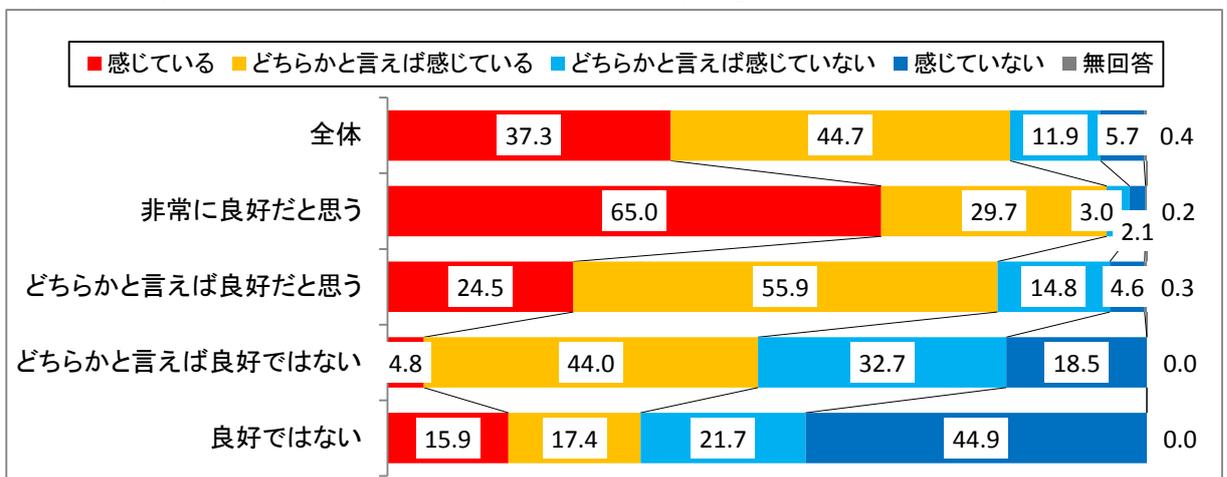
図 6-3-5 問 1-7 仕事への満足感 × 問 1-4 「幸せ」感



(6) 家族との関係と「幸せ」感

家族との関係が良好かどうかと「幸せ」感との関連を見ると、家族との関係が「非常に良好だと思う」人は、65%が「幸せ」を感じており、他の回答よりも高い数値となっている。

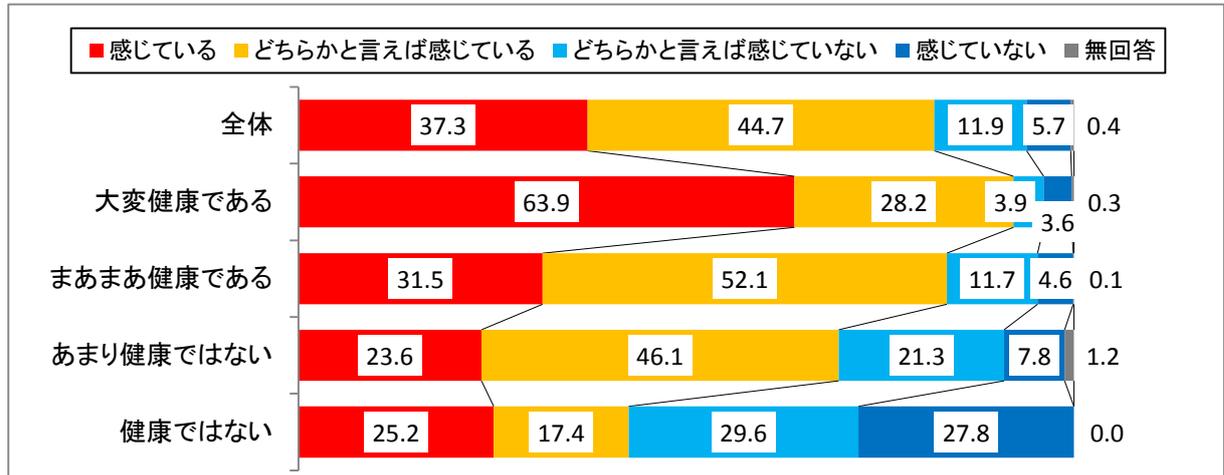
図 6-3-6 問 1-8 家族との関係 × 問 1-4 「幸せ」感



### (7) 健康状態と「幸せ」感

健康であるかどうかと「幸せ」感との関連を見ると、「大変健康である」と回答した人が「幸せ」を感じる比率が最も高く 63.9%となっている。そして「まあまあ健康である」(31.5%)、「健康ではない」(25.2%)、「あまり健康ではない」(23.6%)と続く。

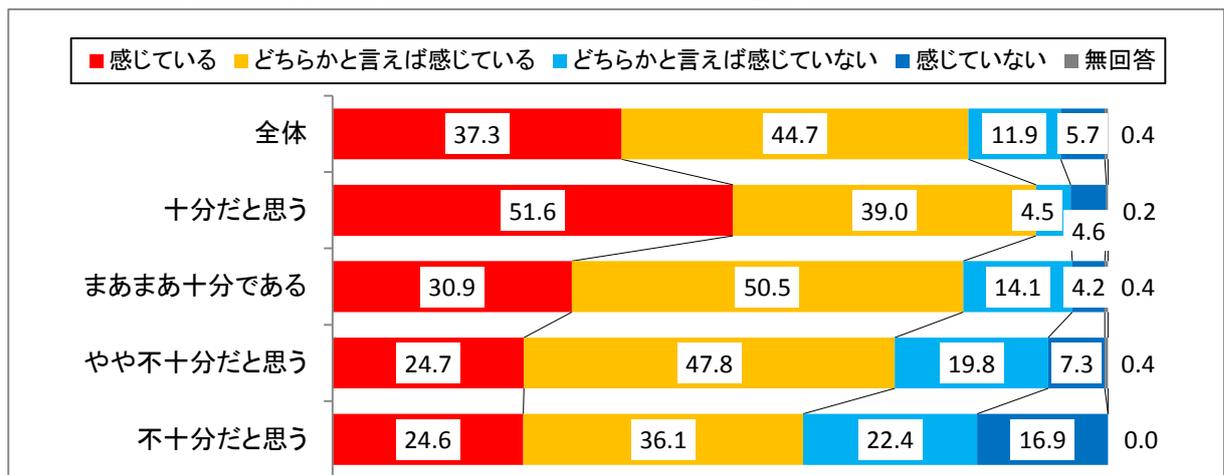
図 6-3-7 問 1-9 健康状態 × 問 1-4 「幸せ」感



### (8) 現在の住まいと「幸せ」感

現在の住まいは生活していく上で十分と思うかどうかと「幸せ」感との関連を見ると、「十分だと思う」と回答した人が「幸せ」を感じる比率が最も高く、51.6%となっている。一方、「幸せ」を感じる比率が最も低いのは、「不十分だと思う」と回答した人で 24.6%となっている。現在の住まいと「幸せ」感には一定の相関が認められる。

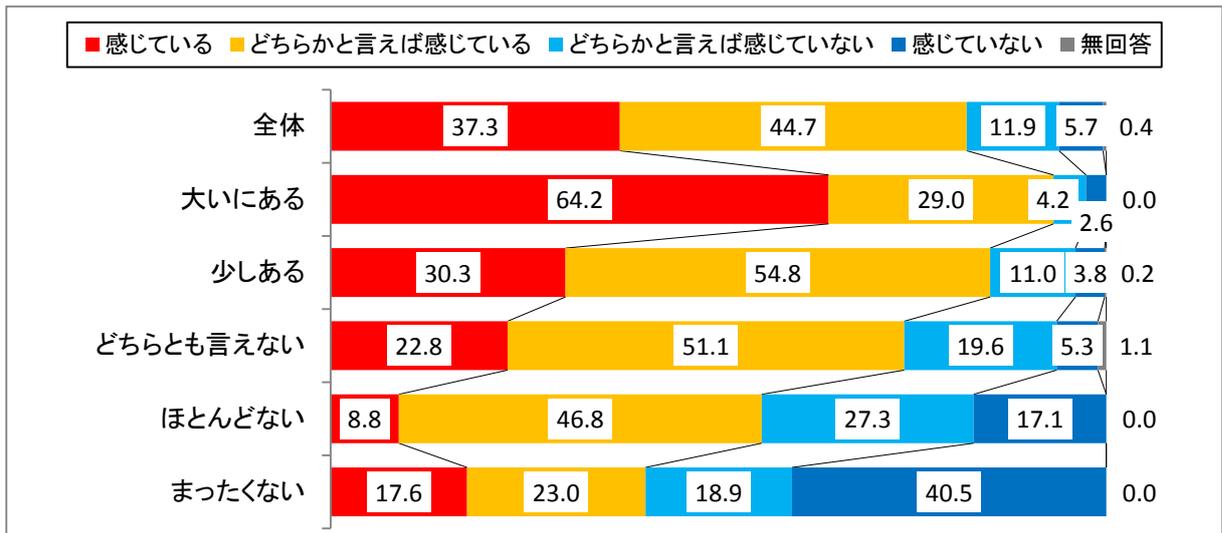
図 6-3-8 問 1-10 現在の住まい × 問 1-4 「幸せ」感



(9) 「生きがい」と「幸せ」感

生きがいにしていることがあるかどうかと「幸せ」感との関連を見ると、「大いにある」と回答した人が「幸せ」を感じる比率が最も高く、64.2%となっている。そして「少しある」(30.3%)、「どちらとも言えない」(22.8%)、「まったくない」(17.6%)、「ほとんどない」(8.8%)と続く。

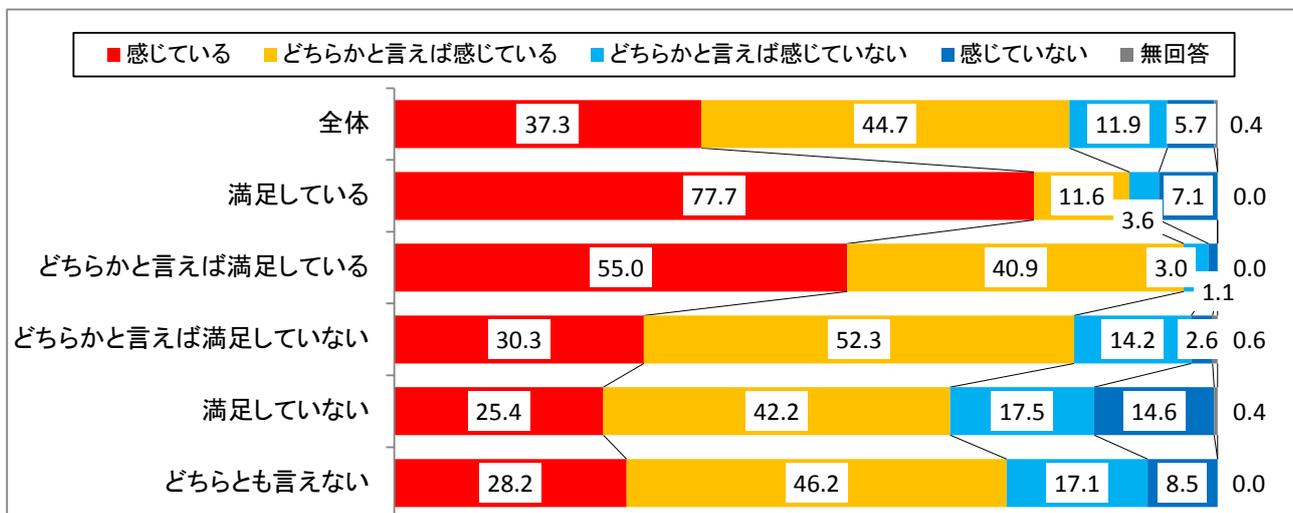
図 6-3-9 問 1-11 「生きがい」 × 問 1-4 「幸せ」感



(10) 社会に対する満足感と「幸せ」感

現在の社会に全体として満足しているかと「幸せ」感との関連を見ると、「満足している」と回答した人が「幸せ」を感じる比率が最も高く、77.7%となっている。そして「どちらかと言えば満足している」(55.0%)、「どちらかと言えば満足していない」(30.3%)、「どちらとも言えない」(28.2%)、「満足していない」(25.4%)と続く。

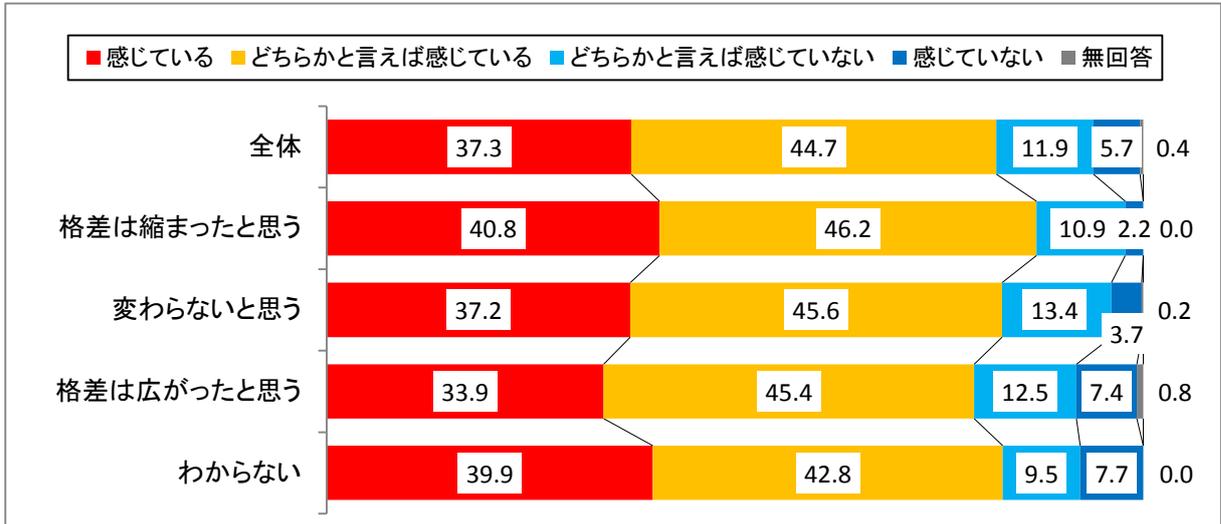
図 6-3-10 問 1-12 社会に対する満足感 × 問 1-4 「幸せ」感



### (11) 県民間の経済格差と「幸せ」感

10年前の沖縄と比べて、県民間の経済格差は縮まったと思うかどうかと「幸せ」感との関連を見ると、経済格差が縮まったと思うかどうかに関わらず、「幸せ」を感じる人の比率に大きな差はみられないことから、両者に特別な相関はないと思われる。

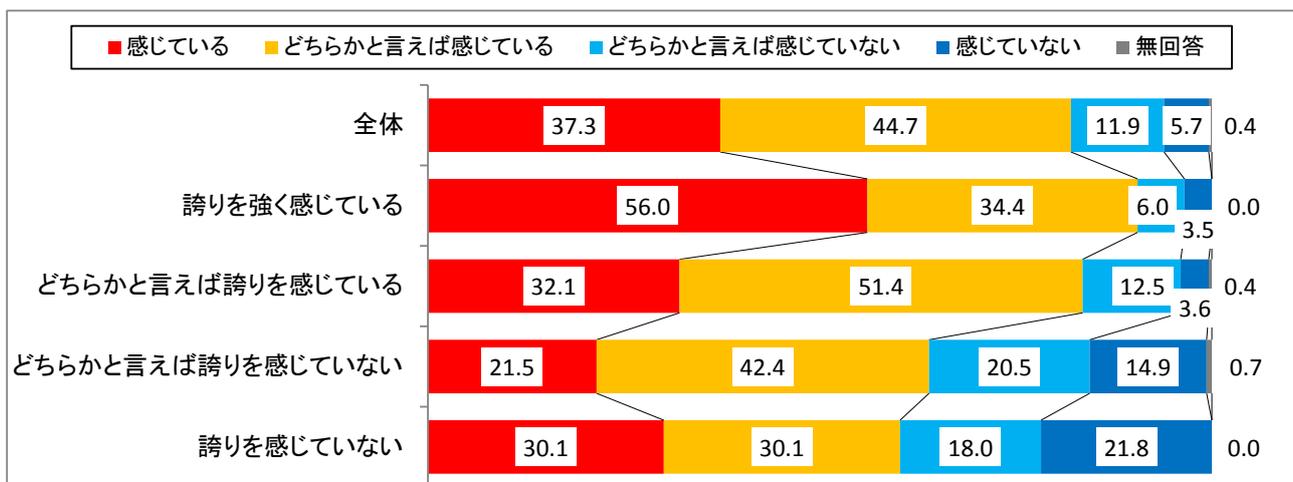
図 6-3-11 問 1-13 県民間の経済格差 × 問 1-4 「幸せ」感



### (12) 沖縄県に対する誇りと「幸せ」感

沖縄県に誇りを感じているかどうかと「幸せ」感との関連を見ると、沖縄県に「誇りを強く感じている」と回答した人が「幸せ」を感じる比率が最も高く、56.0%となっている。そして「どちらかと言えば誇りを感じている」(32.1%)、「誇りを感じていない」(30.1%)、「どちらかと言えば感じていない」(21.5%)と続く。

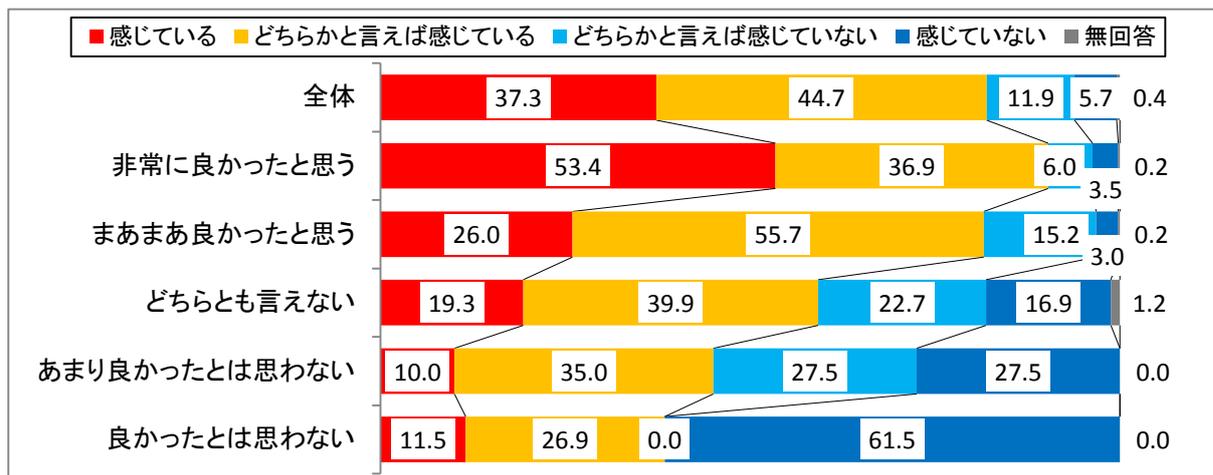
図 6-3-12 問 1-14 沖縄県に対する誇り × 問 1-4 「幸せ」感



(13) 「沖縄県に生まれてよかった」との思いと「幸せ」感

沖縄県に生まれ、あるいは沖縄県で生活していて良かったと思うかどうかと「幸せ」感との関連を見ると、「非常に良かったと思う」人が「幸せ」を感じる比率が最も高く、53.4%となっている。そして「まあまあ良かったと思う」(26.0%)、「どちらとも言えない」(19.3%)、「良かったとは思わない」(11.5%)、「あまり良かったとは思わない」(10.0%)と続く。

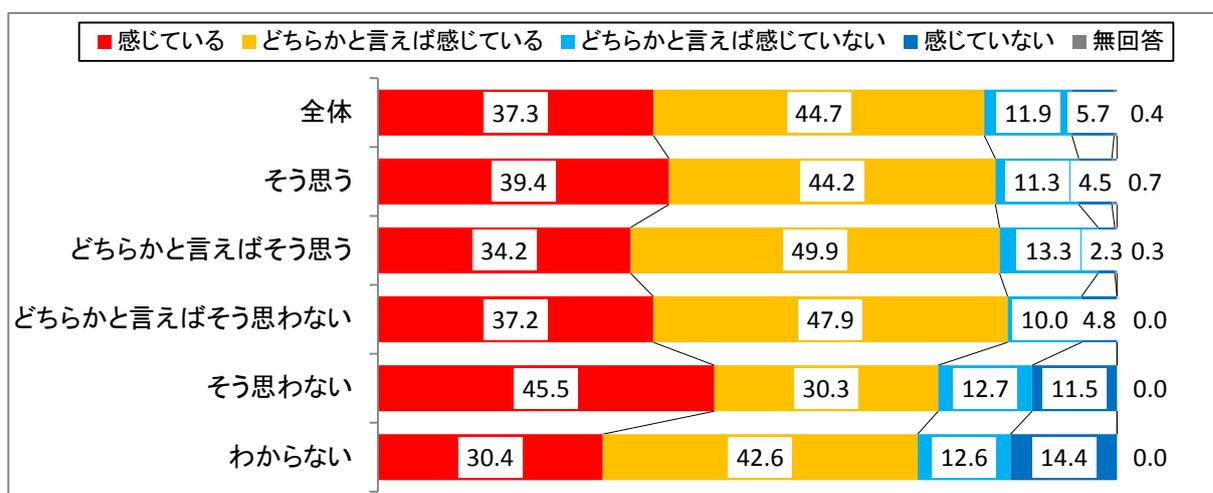
図 6-3-13 問 1-15 「沖縄県に生まれてよかった」との思い × 問 1-4 「幸せ」感



(14) 米軍専用施設の集中に対する意識と「幸せ」感

沖縄県に全国の米軍専用施設の約74%が存在している。それを差別的な状況だと思うかどうかと「幸せ」感との関連を見ると、「そうは思わない」人が最も高い比率で「幸せ」を感じており、「そう思う」人がそれに次ぐ比率で「幸せ」を感じている。差別的な状況であると思うかどうかと「幸せ」感の間には、特別な相関はないと考えられる。

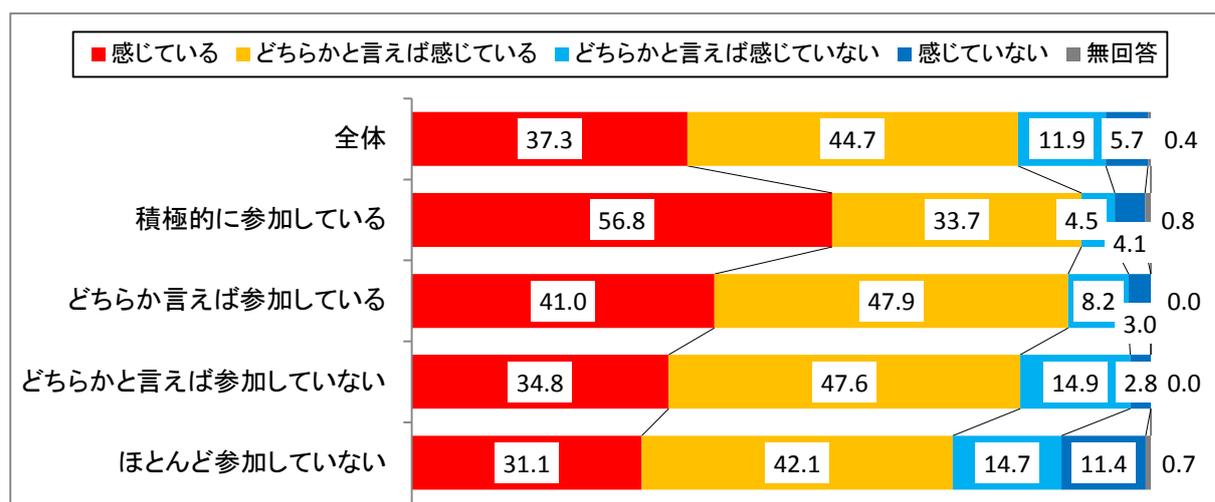
図 6-3-14 問 1-16 米軍専用施設の集中に対する意識 × 問 1-4 「幸せ」感



### (15) イベントや催し物、会合等への参加と「幸せ」感

各種のイベントや催し物に参加しているかどうかと「幸せ」感との関連を見ると、「積極的に参加している方だと思う」と回答した人が「幸せ」を感じる比率が最も高く、56.8%となっている。そして「どちらかと言えば参加している」(41.0%)、「どちらかと言えば参加していない」(34.8%)、「ほとんど参加していない」(31.1%)と続く。イベントや催し物、会合等への参加と「幸せ」感には一定の相関が認められる。

図 6-3-15 問 1-17 イベントや催し物、会合等への参加 × 問 1-4 「幸せ」感

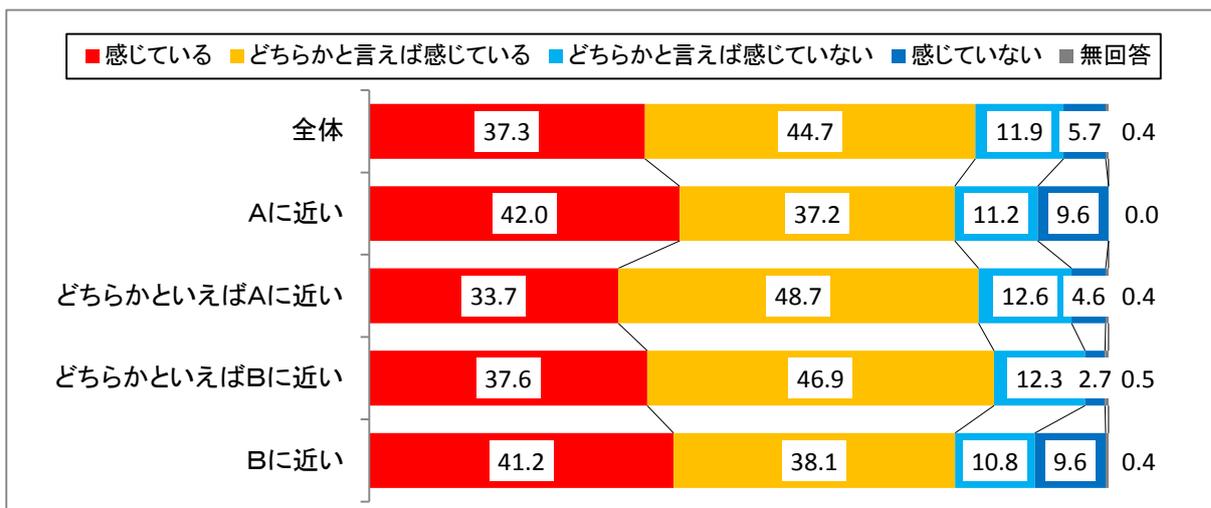


#### 4. 生活価値観の選択と「幸せ」感（問6×問1-4）

##### (1) “仕事と余暇”と「幸せ」感

A「いつでも仕事を優先させる」と考える人とB「休みをつぶしてまで仕事をしようとは思わない」と考える人との考え方の違いが「幸せ」感とどのように関連しているかを見ると、仕事優先派の「幸せ」感が最も高くなっているが、どちらの考えであっても「幸せ」感に大きな差はない。

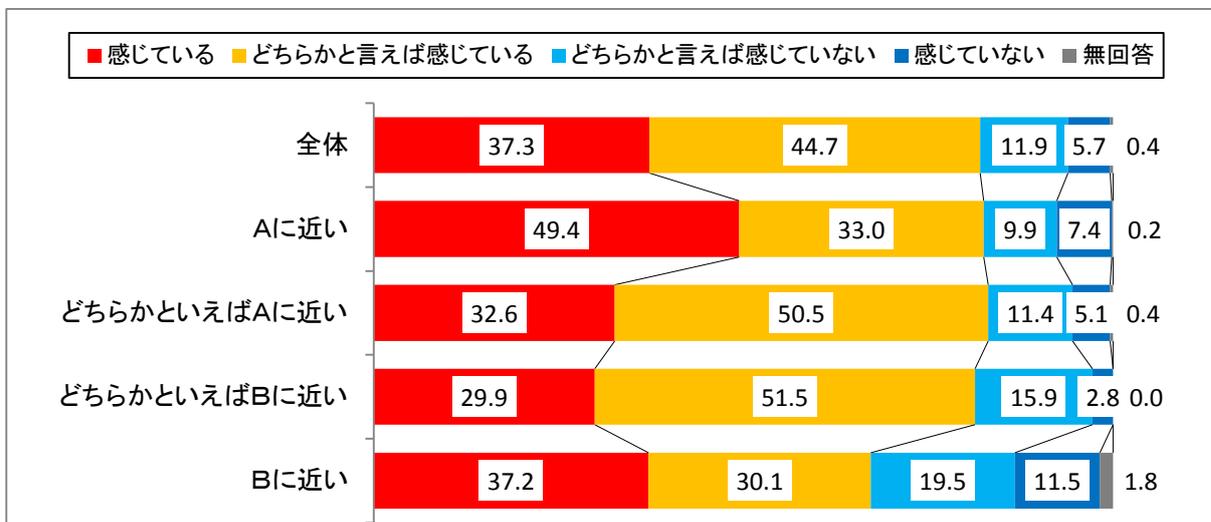
図6-4-1 問6-1 仕事と余暇 × 問1-4「幸せ」感



##### (2) “精神的豊かさと物質的豊かさ”と「幸せ」感

A「精神的な豊かさが大切」と考えるかB「物質的な豊かさが大切」と考えるかの考え方の違いが「幸せ」感とどのように関連しているのかを見ると、「精神的豊かさ」を大切にする人の「幸せ」感が最も高くなっているが、どちらの考えであっても「幸せ」感に大きな差はない。

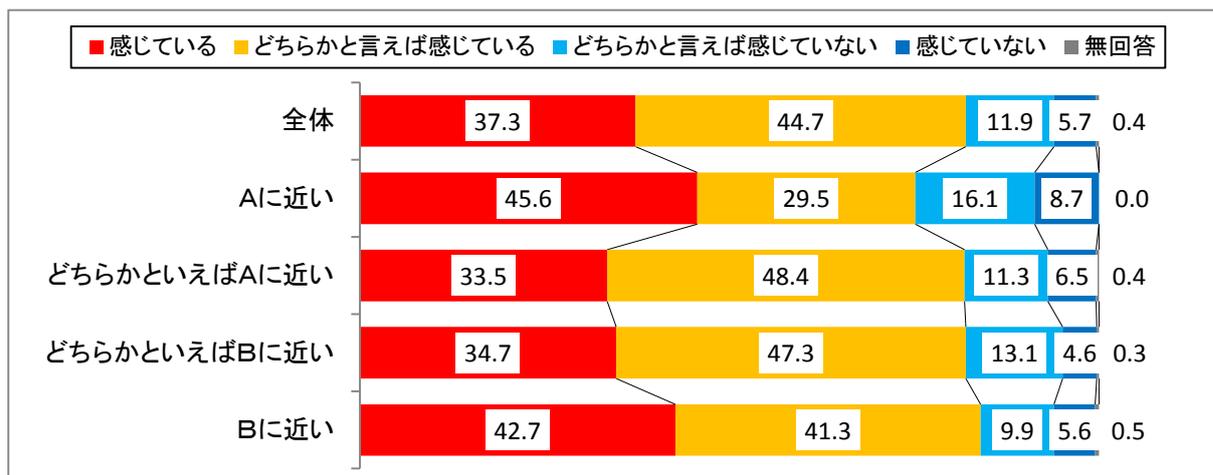
図6-4-2 問6-2 精神的豊かさと物質的豊かさ × 問1-4「幸せ」感



### (3) “女性の社会進出と家事専念”と「幸せ」感

A「女性は家事・育児に専念すべき」と考えるかB「女性も外に出て働いた方がいい」と考えるかの考え方の違いが「幸せ」感とどのように関連するかを見ると、「女性は家事・育児に専念すべき」と考える人が「幸せ」を感じる比率と「女性も外に出てどんどん働いた方がいい」と考える人のそれとは、それぞれ「どちらかといえば」という中間的な考えの人の比率よりともに高い傾向が見られる。AかBかによる「幸せ」感との相関はないと考えられる。

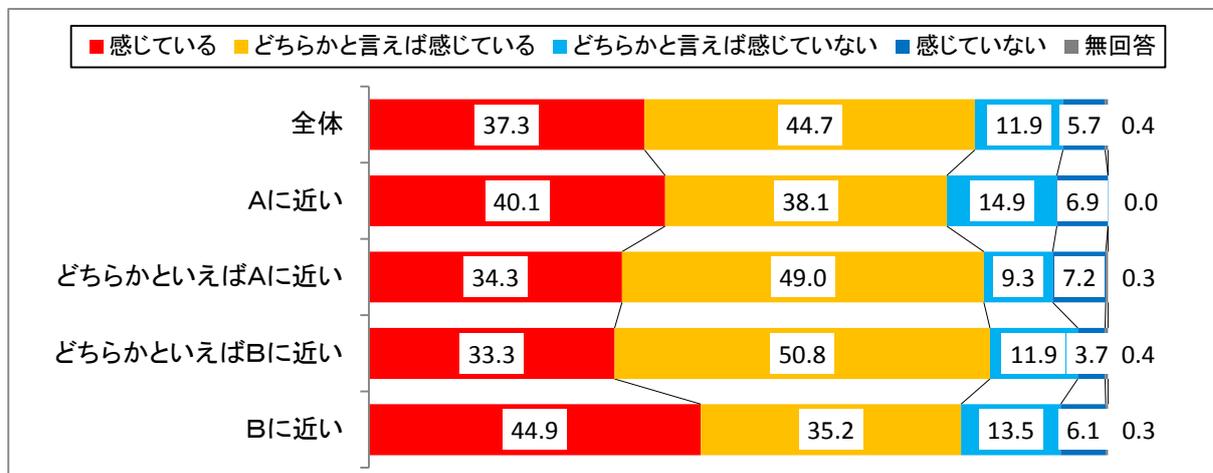
図 6-4-3 問 6-3 女性の社会進出と家事専念 × 問 1-4 「幸せ」感



### (4) “男性の家事専念と社会活動”と「幸せ」感

A「男性が家にいて家事や育児に専念してもいい」と考えるかB「外で働いて、社会的責任を果たすべき」と考えるかの考え方の違いが「幸せ」感とどのように関連するかを見ると、B「外で働いて、社会的責任を果たすべき」と考える人が「幸せ」と感じる比率が最も高い。また、A「男性が家にいて家事や育児に専念してもいい」という考えの人が「幸せ」と感じる比率がそれに次いでいる。AかBかによる「幸せ」感との相関はないと考えられる。

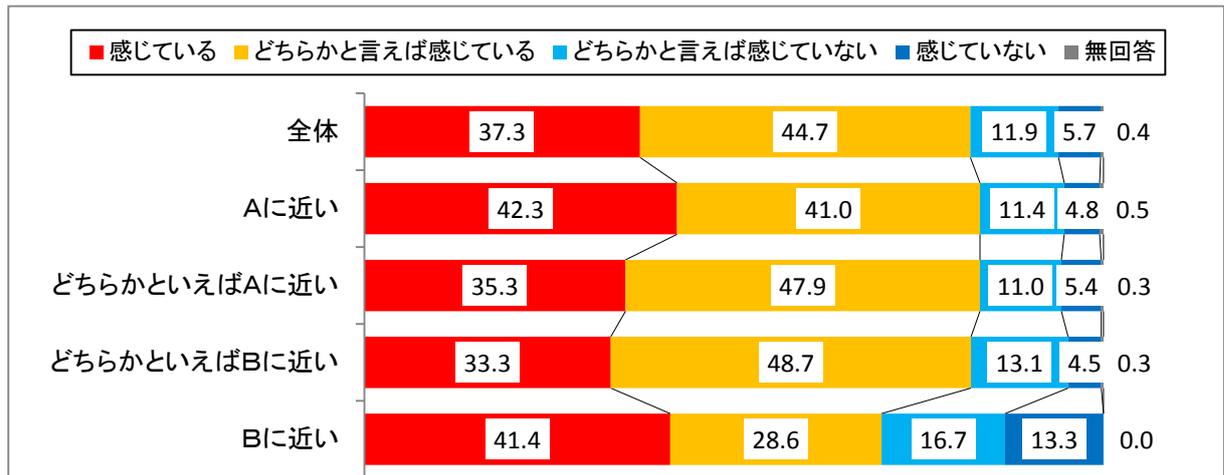
図 6-4-4 問 6-4 男性の家事専念と社会活動 × 問 1-4 「幸せ」感



(5) “能力・実績主義と年功序列主義”と「幸せ」感

A「年齢や勤務年数にかかわらず、能力と実績を重視して賃金と地位が決めることが望ましい」と考えるかB「年齢や勤務年数に応じて、賃金や地位を決める年功序列を大切にされた方がよい」と考えるかの考え方の違いが「幸せ」感とどのように関連するかを見ると、能力や実績を重視する考えの人が「幸せ」を感じる比率が最も高いが、年功序列を重視する考えの人が「幸せ」を感じる比率も高い。

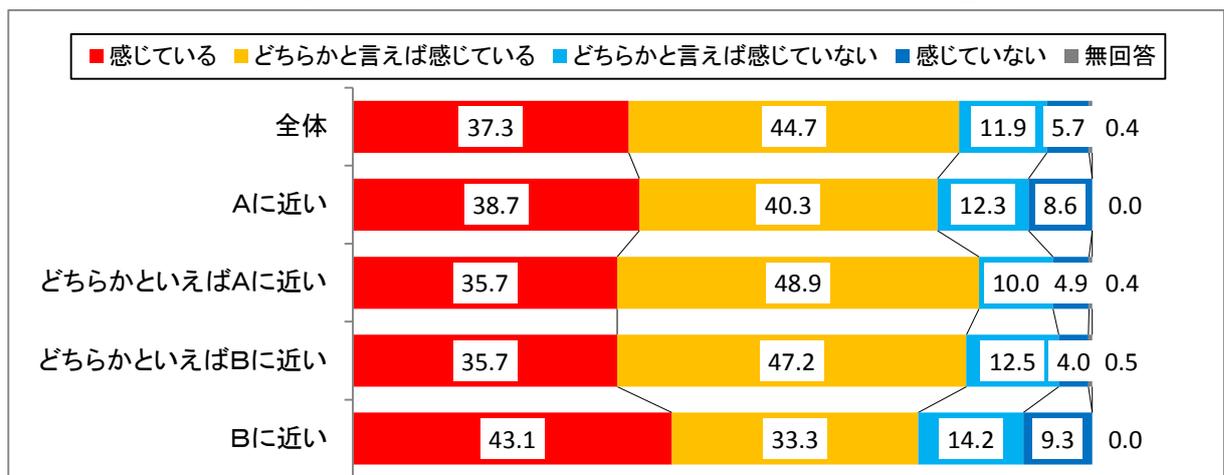
図 6-4-5 問 6-5 能力・実績主義と年功序列主義 × 問 1-4 「幸せ」感



(6) “都心での生活と郊外での生活”と「幸せ」感

A「多少土地が高価でも利便性のよい都心（街の中）で暮らす方がいい」と考える人とB「多少不便でも、土地の安価な郊外で暮らす方がいい」と考える人の考え方の違いが「幸せ」感とどのように関連するかを見ると、2つの考えと「幸せ」感の比率には、差異はないと言える。

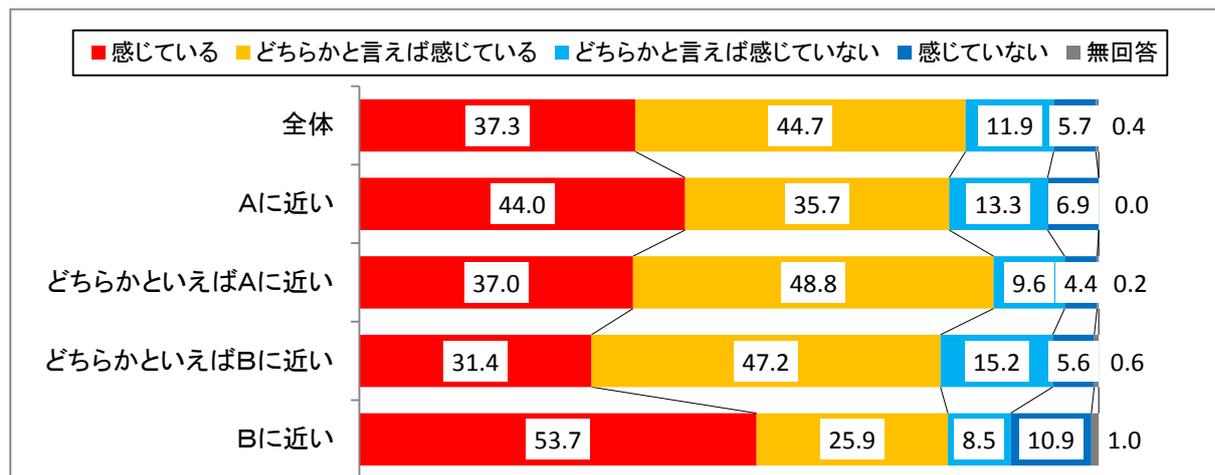
図 6-4-6 問 6-6 都心での生活と郊外での生活 × 問 1-4 「幸せ」感



### (7) “改革と保守” と「幸せ」感

A「新しいものは大いに取り入れて改革して欲しい」と考える人とB「いたずらに改革するより古いものの価値を大切にするのがよい」と考える人の考え方の違いが「幸せ」感とどのように関連するかを見ると、2つの考えと「幸せ」感の比率には、差異はないと言える。

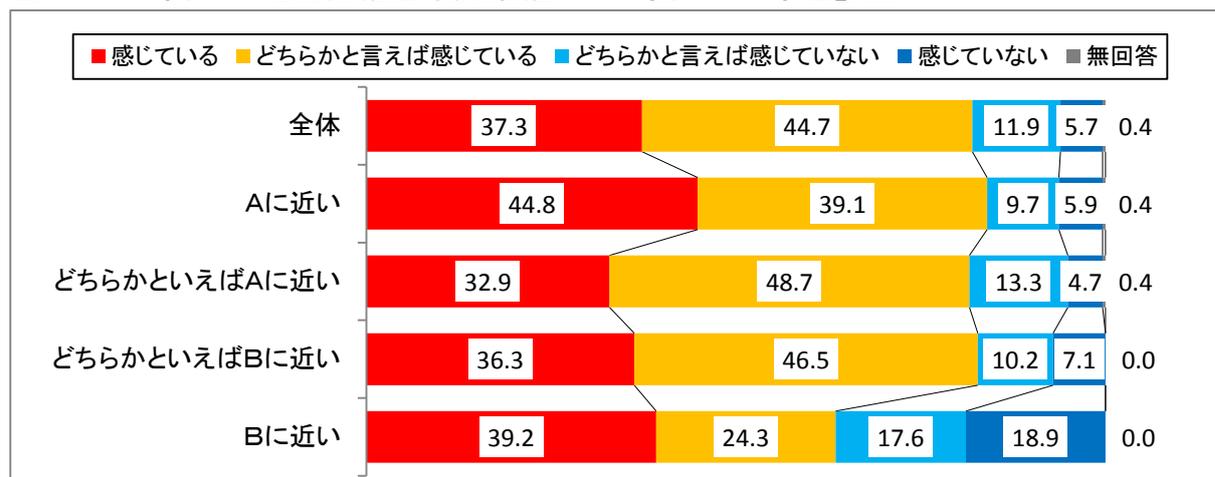
図 6-4-7 問 6-7 改革と保守 × 問 1-4 「幸せ」感



### (8) “地方分権と中央集権” と「幸せ」感

A「地方分権を進め、県や市町村にもっと権限を移した方がいい」と考える人とB「政府が権限の多くを管理している方がいい」と考える人の考え方の違いが「幸せ」感とどのように関連するかを見ると、2つの考えと「幸せ」感の比率には、差異はないと言える。

図 6-4-8 問 6-8 地方分権と中央集権 × 問 1-4 「幸せ」感

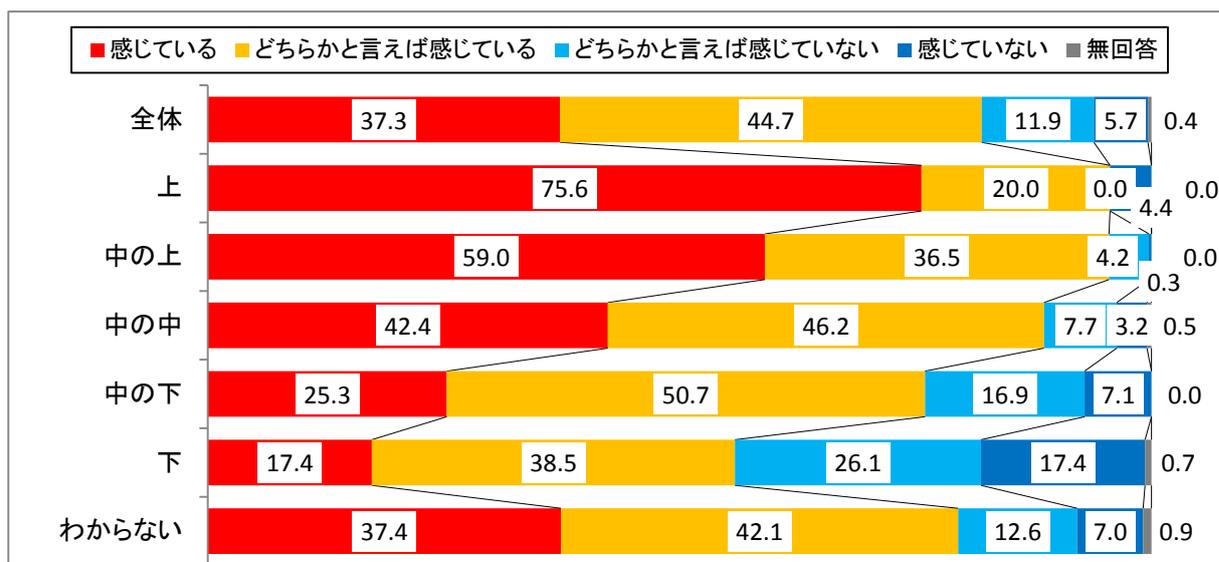


## 5. 生活状態（くらしむき）と「幸せ」感（問9×問1-4）

### (1) 生活状態の意識と「幸せ」感

家族の生活状態と「幸せ」感との関連を見ると、生活状態がよそに比べて「上」と回答した人が「幸せ」を感じる比率が最も高く、75.6%となっている。一方、「幸せ」を感じる比率が最も低いのは、生活状態がよそに比べて「下」と回答した人で17.4%となっている。生活状態の意識と「幸せ」感の間には、一定の相関があると考えられる。

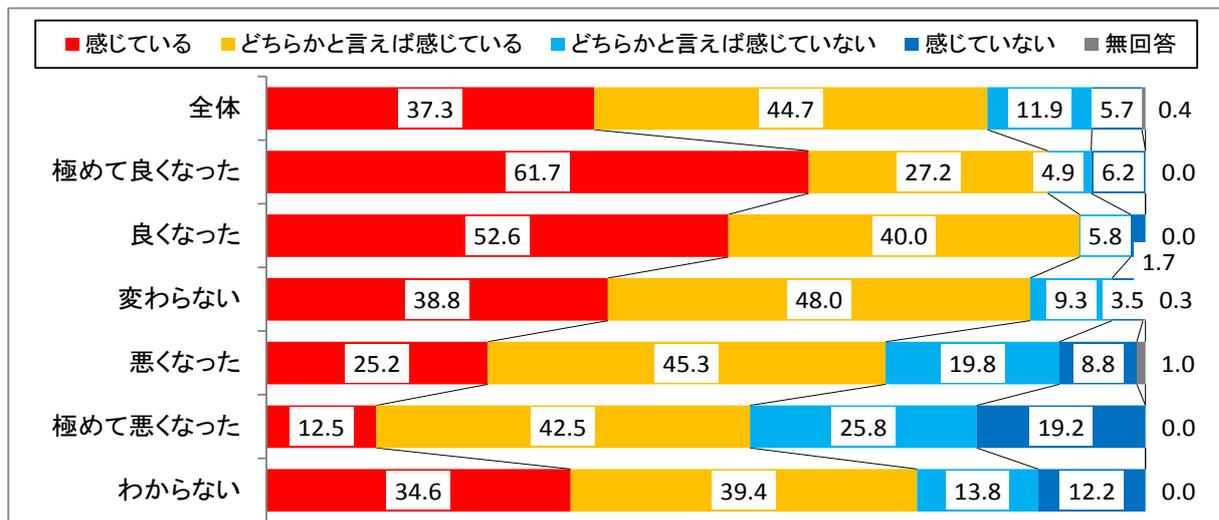
図 6-5-1 問 9-1 生活状態の意識 × 問 1-4 「幸せ」感



### (2) 生活状態の変化と「幸せ」感

生活状態が4、5年間前に比べて向上したと感じているかどうかと「幸せ」感の関連を見ると、「極めてよくなった」と回答した人が「幸せ」を感じる比率が最も高く、61.7%となっている。一方、「幸せ」を感じる比率が最も低いのは、「極めて悪くなった」と回答した人で12.5%となっている。生活状態の意識と「幸せ」感の間には、一定の相関があると考えられる。

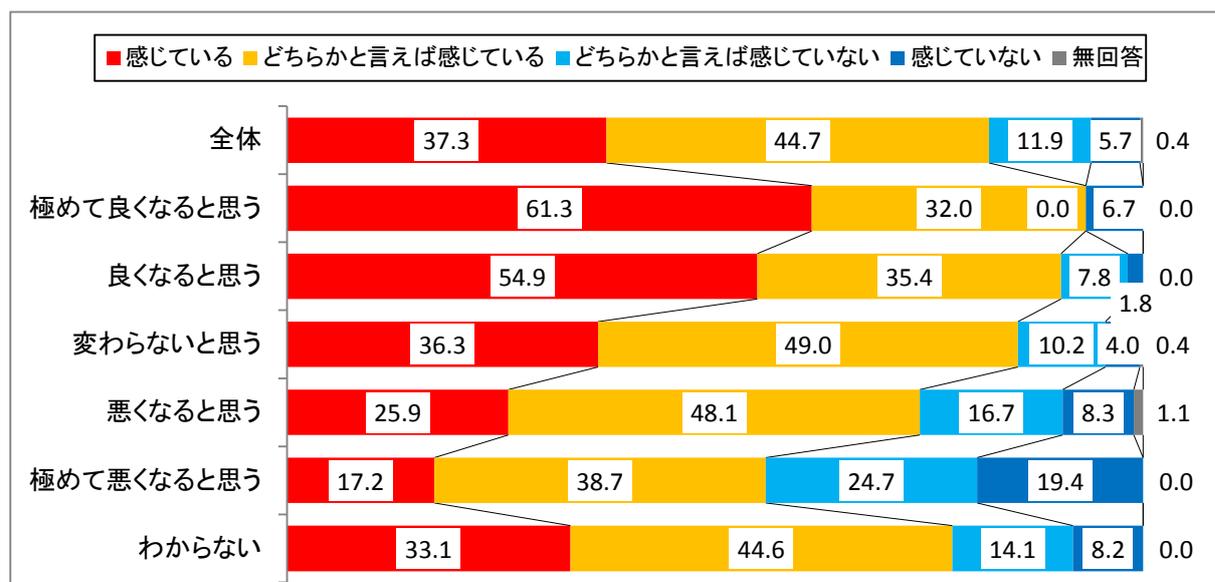
図 6-5-2 問 9-2 生活状態の変化 × 問 1-4 「幸せ」感



### (3) 生活状態の見通しと「幸せ」感

今後の生活が今の生活に比べて良くなると思うかどうかという見通しと、「幸せ」感との関連を見ると、「極めて良くなると思う」と回答した人が「幸せ」を感じる比率が最も高く、61.3%となっている。そして「良くなると思う」(54.9%)、「変わらないと思う」(36.3%)、「わからない」(33.1%)、「悪くなると思う」(25.9%)、「極めて悪くなると思う」(17.2%)と続く。生活状態の見通しと「幸せ」感の間には、一定の相関があると考えられる。

図 6-6-3 問 9-3 生活状態の見通し × 問 1-4 「幸せ」感



## 6. 県民の自己像と「社会に対する満足」感（問 1-1～16×問 1-12）

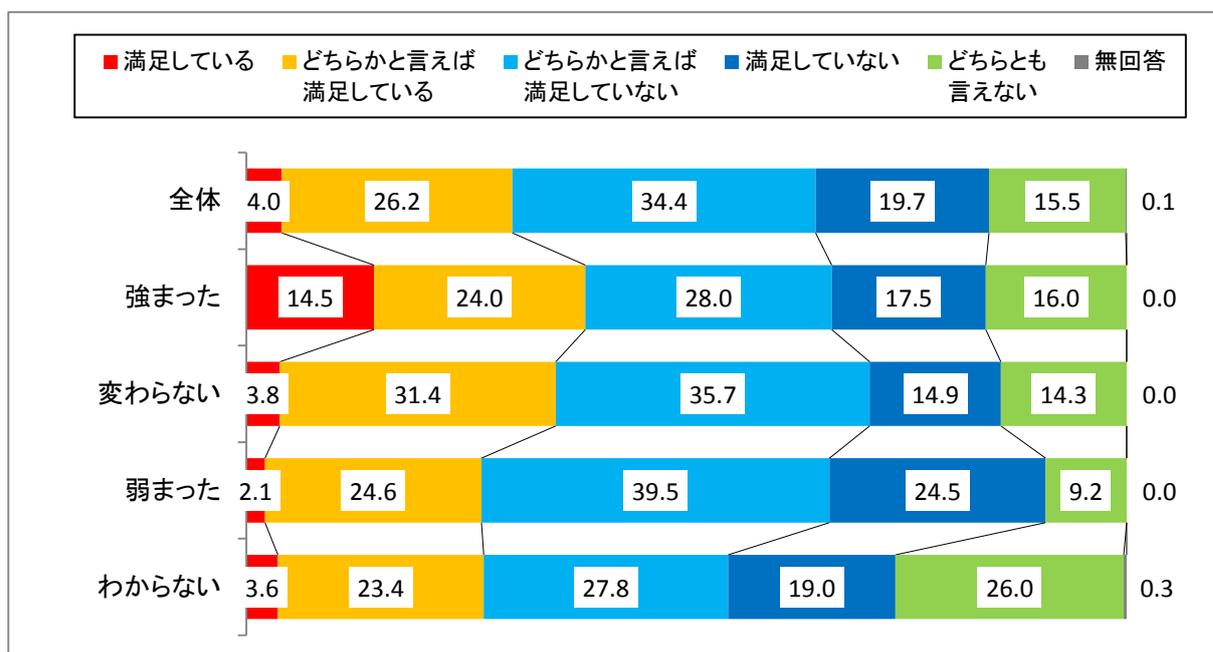
問 1 の (12) 「あなたは、現在の社会に全体として満足していますか」という設問に対して、「満足している」が 4.0%、「どちらかといえば満足している」が 26.2%、「どちらかといえば満足していない」が 34.4%、「満足していない」が 19.7%、そして、「どちらとも言えない」が 15.5%であった。54.1%の人が社会に対して満足していない状況といえる。

ここでは、これら「社会に対する満足」感と沖縄県民の自己像との関連を見ていく。

### (1) 人と人のつながりと「社会に対する満足」感

10 年前の沖縄に比べて、人と人のつながりが強まったと思うかどうかと「社会に対する満足」感との関連を見ると、「10 年前より強まった」と回答した人が、「社会に対する満足」感を感じる比率が高く、「満足している」「どちらかといえば満足している」の比率の合計は 38.5%となっている。そして「変わらない」(35.2%)、「わからない」(27.0%)、「弱まった」(26.7%) と続く。

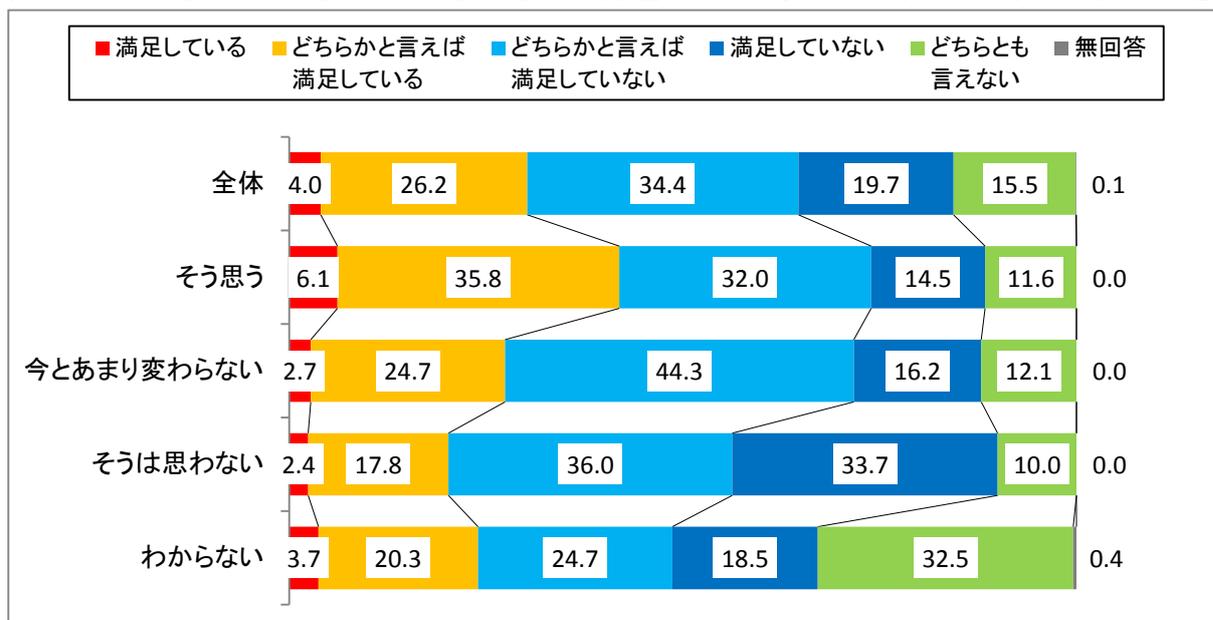
図 6-6-1 問 1-1 人と人のつながり × 問 1-12 「社会に対する満足」感



## (2) 20年先の沖縄に対する見通しと「社会に対する満足」感

20年先の沖縄は現在よりも発展し、輝いていると思うかどうかと「社会に対する満足」感との関連を見ると、「そう思う」と回答した人が、「社会に対する満足」感を感じる比率が高く、「満足している」「どちらかと言えば満足している」の比率の合計は41.9%となっている。そして「今とあまり変わらない」(27.4%)、「わからない」(24.0%)、「そうは思わない」(20.2%)と続く。

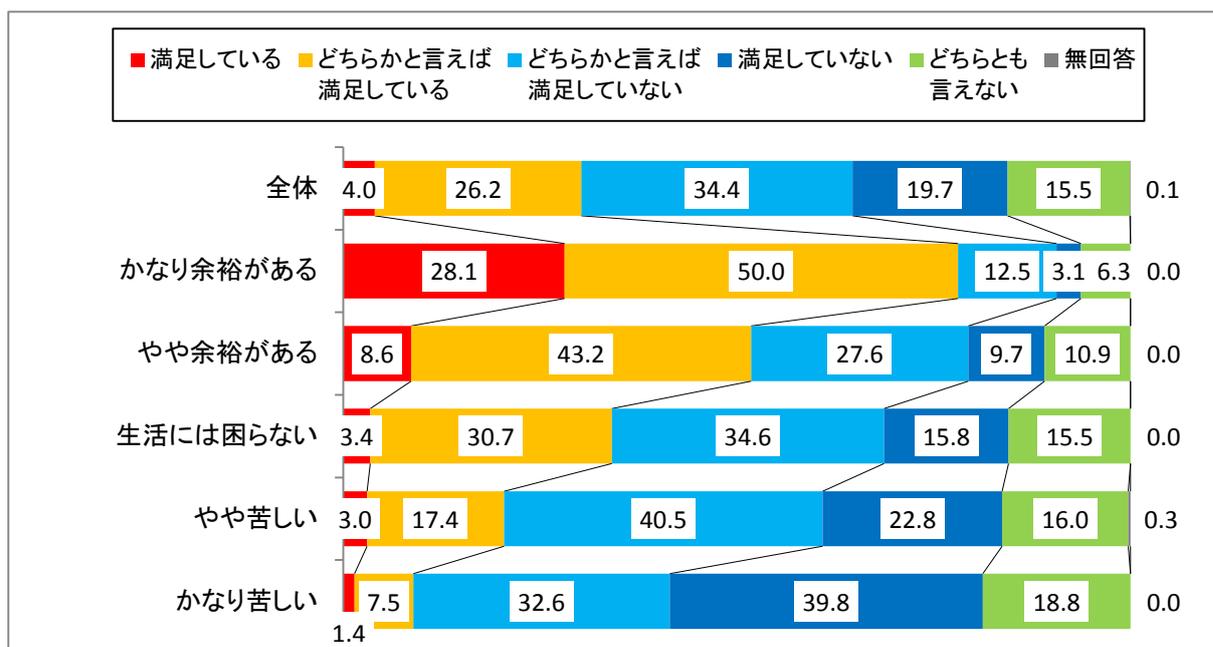
図 6-6-2 問 1-2 20年先の沖縄に対する見通し × 問 1-12 「社会に対する満足」感



## (3) 世帯の経済状況と「社会に対する満足」感

世帯の経済状況に余裕があるかどうかと「社会に対する満足」感との関連を見ると、「かなり余裕がある」と回答した人が、「社会に対する満足」感を感じる比率が高く、「満足している」「どちらかと言えば満足している」の比率の合計は78.1%となっている。そして「やや余裕がある」(51.8%)、「生活には困らない」(34.1%)、「やや苦しい」(20.4%)、「かなり苦しい」(8.9%)と続く。世帯の経済状況と「社会に対する満足」感に一定の相関があることが考えられる。

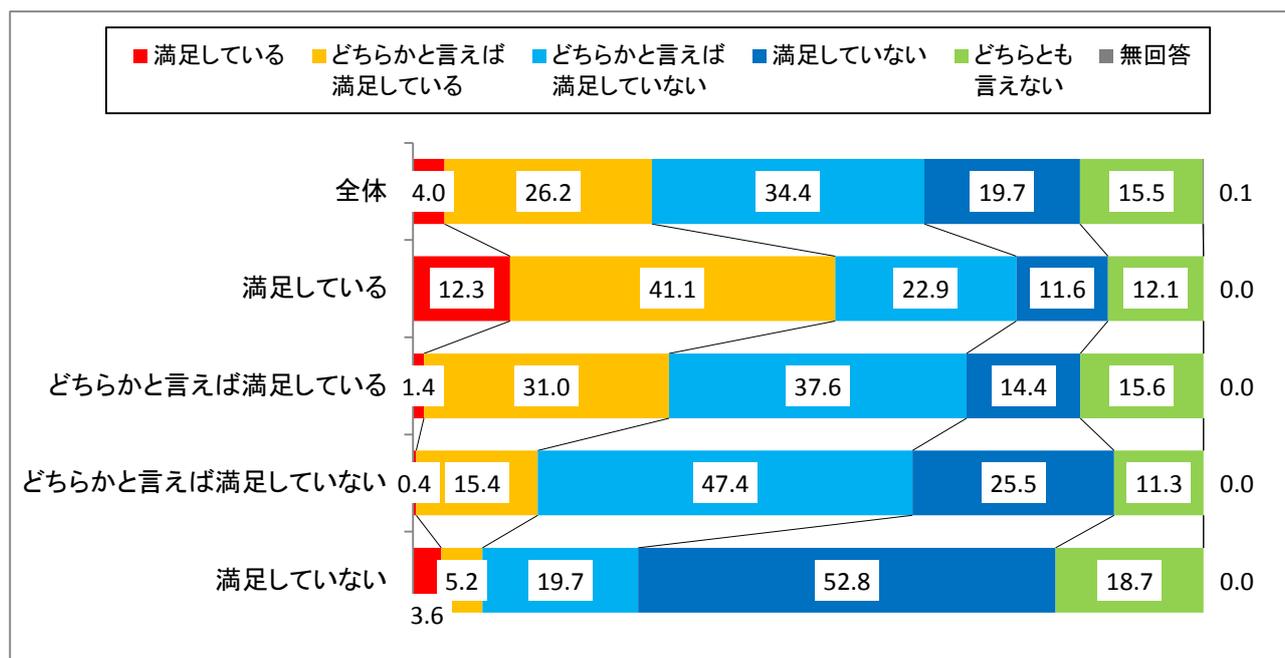
図 6-6-3 問 1-6 世帯の経済状況 × 問 1-12 「社会に対する満足」感



(4) 仕事に対する満足感と「社会に対する満足」感

現在の仕事に満足しているかどうかと「社会に対する満足」感との関連を見ると、「満足している」と回答した人が、「社会に対する満足」感を感じる比率が高く、「満足している」「どちらかと言えば満足している」の比率の合計は 53.4%となっている。そして「どちらかと言えば満足している」(32.4%)、「どちらかと言えば満足していない」(15.8%)、「満足していない」(8.8%)と続く。仕事に対する満足感と「社会に対する満足」感に一定の相関があることが考えられる。

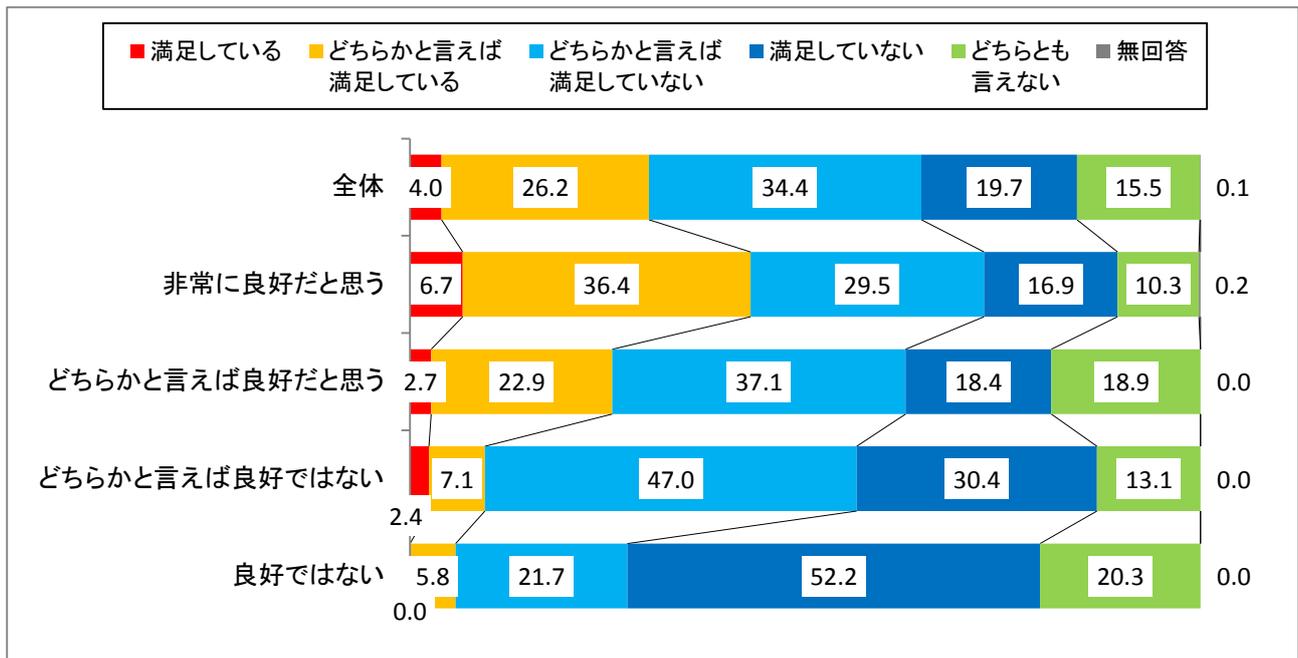
図 6-6-4 問 1-7 仕事に対する満足感 × 問 1-12 「社会に対する満足」感



### (5) 家族との関係と「社会に対する満足」感

家族との関係が良好だと思うかどうかと「社会に対する満足」感との関連を見ると、「非常に良好だと思う」と回答した人が、「社会に対する満足」感を感じる比率が高く、「満足している」「どちらかと言えば満足している」の比率の合計は43.1%となっている。そして「どちらかと言えば良好だと思う」(25.6%)、「どちらかと言えば良好ではない」(9.5%)、「良好ではない」(5.8%)と続く。家族との関係と「社会に対する満足」感に一定の相関があることが考えられる。

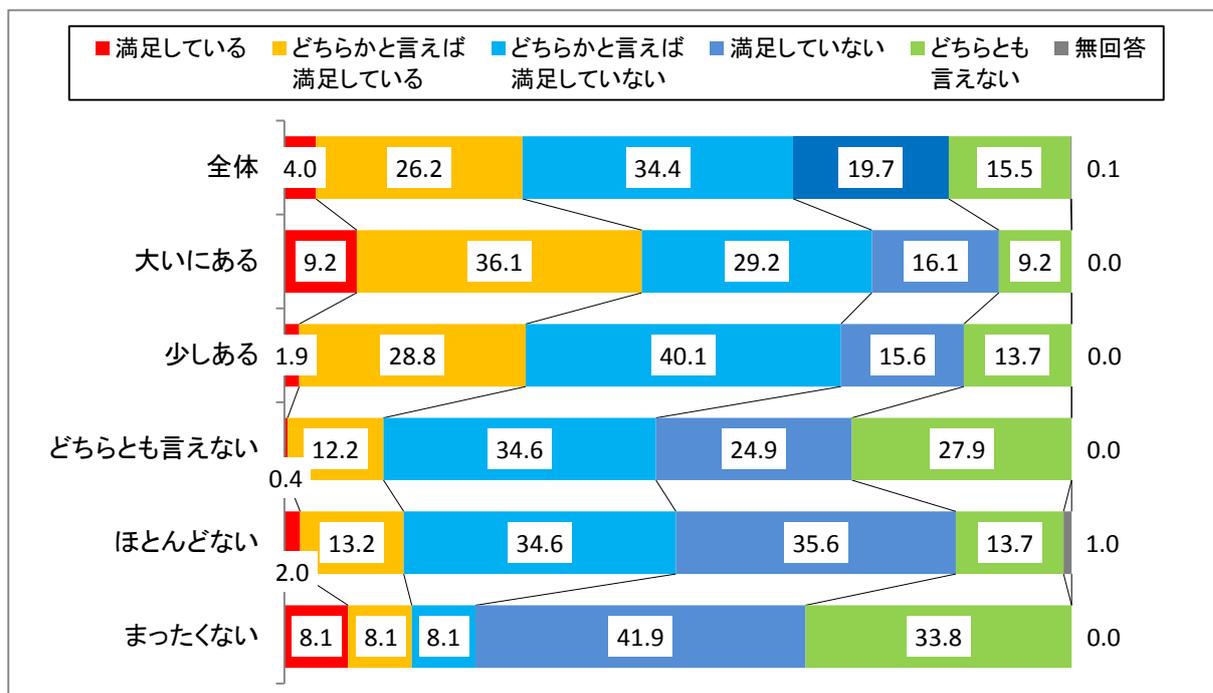
図 6-6-5 問 1-8 家族との関係 × 問 1-12 「社会に対する満足」感



### (6) 「生きがい」と「社会に対する満足」感

生きがいにしていることがあるかどうかと「社会に対する満足」感との関連を見ると、「大いにある」と回答した人が、「社会に対する満足」感を感じる比率が高く、「満足している」「どちらかと言えば満足している」の比率の合計は45.3%となっている。そして「少しある」(30.7%)、「まったくない」(16.2%)、「ほとんどない」(15.2%)、「どちらとも言えない」(12.6%)と続く。「生きがい」と「社会に対する満足」感に一定の相関があるかどうかは、どちらとも言えない。

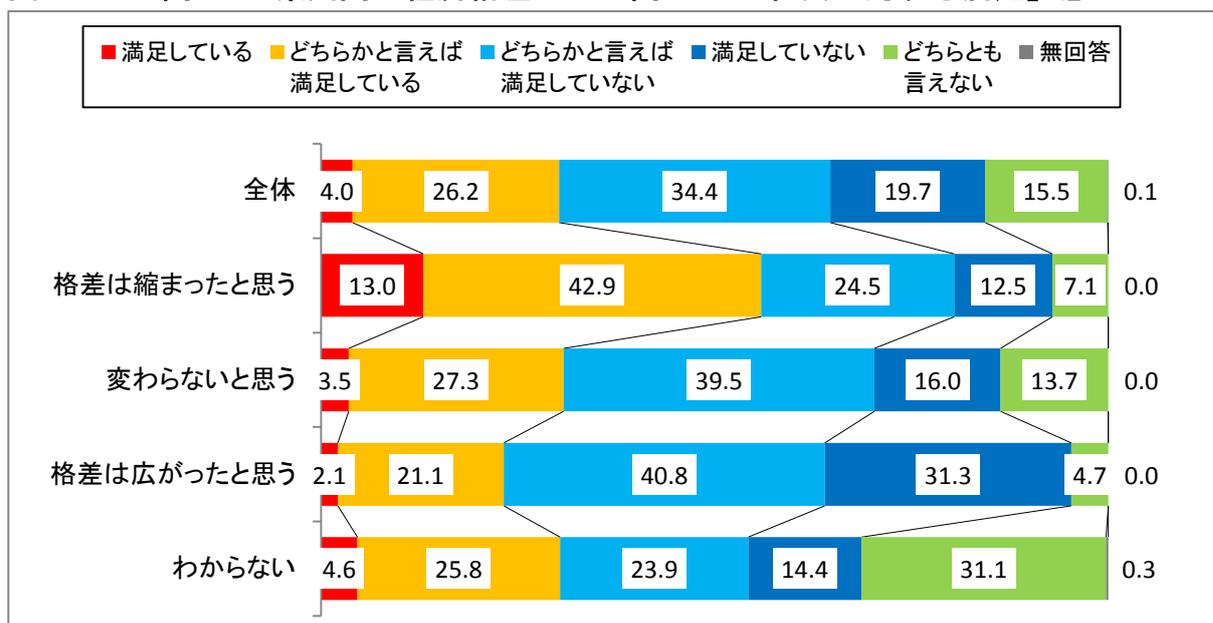
図 6-6-6 問 1-11 「生きがい」 × 問 1-12 「社会に対する満足」感



(7) 県民間の経済格差と「社会に対する満足」感

10年前の沖縄に比べて、県民間の経済格差は縮まったと思うかどうかと「社会に対する満足」感との関連を見ると、「格差は縮まったと思う」と回答した人が、「社会に対する満足」感を感じる比率が高く、「満足している」「どちらかと言えば満足している」の比率の合計は55.9%となっている。そして「変わらないと思う」(30.8%)、「わからない」(30.4%)、「格差は広がったと思う」(23.2%)と続く。県民間の経済格差と「社会に対する満足」感に一定の相関があることが考えられる。

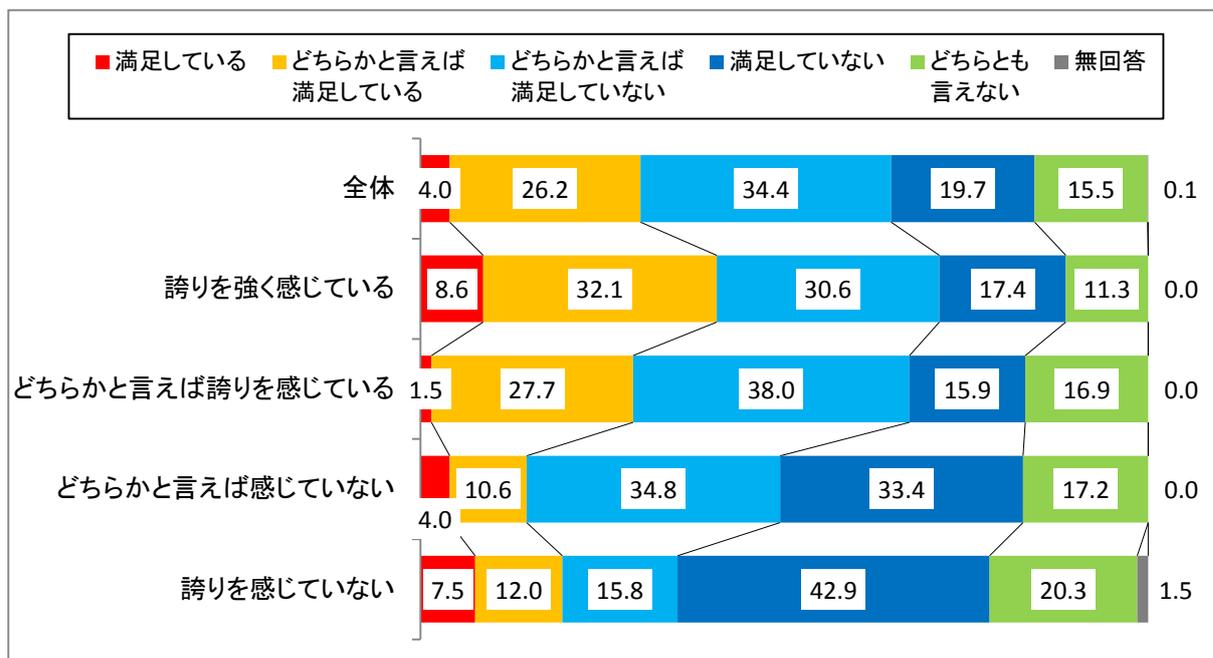
図 6-6-7 問 1-13 県民間の経済格差 × 問 1-12 「社会に対する満足」感



### (8) 沖縄県に対する誇りと「社会に対する満足」感

沖縄県に誇りを感じるかどうかと「社会に対する満足」感との関連を見ると、「誇りを強く感じている」と回答した人が、「社会に対する満足」感を感じる比率が高く、「満足している」「どちらかと言えば満足している」の比率の合計は 40.7%となっている。そして「どちらかと言えば誇りを感じている」(29.2%)、「誇りを感じていない」(19.5%)、「どちらかと言えば感じていない」(14.6%)と続く。沖縄県に対する誇りの有無と「社会に対する満足」感に一定の相関があることが考えられる。

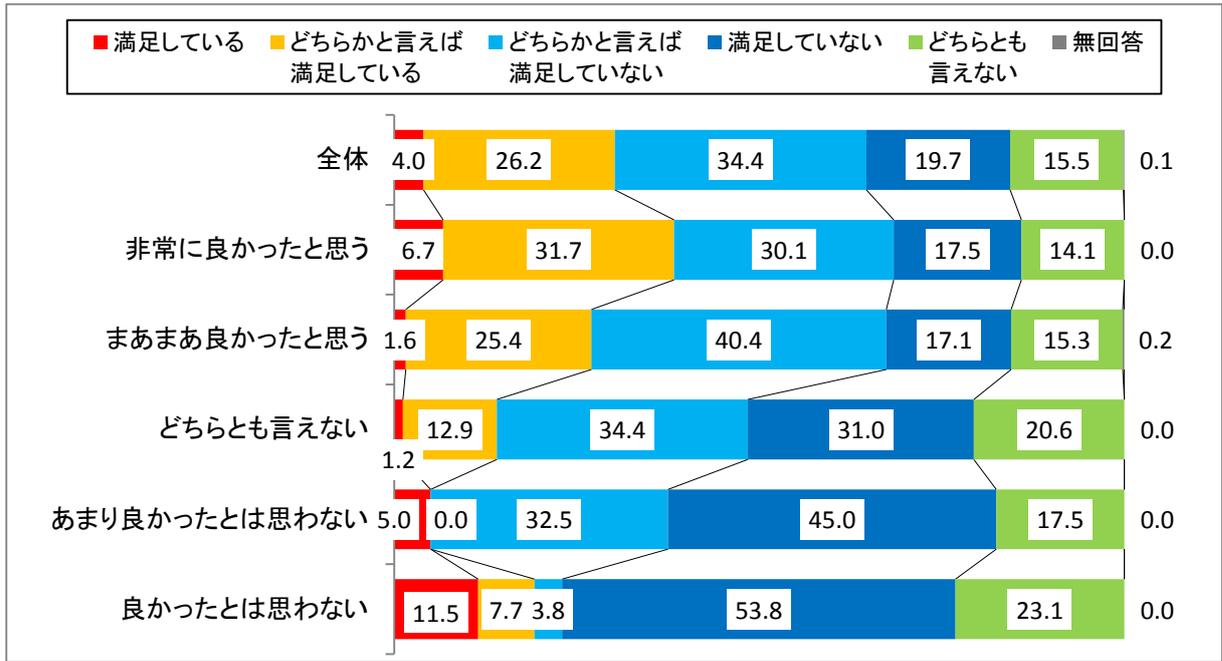
図 6-6-8 問 1-14 沖縄県に対する誇り × 問 1-12 「社会に対する満足」感



### (9) 「沖縄県に生まれて良かった」との思いと「社会に対する満足」感

沖縄県に生まれ、あるいは沖縄県で生活していて良かったと思うかどうかと「社会に対する満足」感との関連を見ると、「非常に良かったと思う」と回答した人が、「社会に対する満足」感を感じる比率が高く、「満足している」「どちらかと言えば満足している」の比率の合計は 38.4%となっている。そして「まあまあ良かったと思う」(27.0%)、「良かったとは思わない」(19.2%)、「どちらとも言えない」(14.1%)、「あまり良かったとは思わない」(5.0%)、と続く。沖縄県に生まれて良かったとの思いと「社会に対する満足」感に一定の相関があることが考えられる。

図 6-6-9 問 1-15「沖縄に生まれて良かった」 × 問 1-12「社会に対する満足」感



(10) 米軍専用施設の集中に対する意識と「社会に対する満足」感

沖縄県に全国の米軍専用施設の約 74%が存在していることについて、差別的な状況だと思うかどうかと「社会に対する満足」感との関連を見ると、「どちらかと言えばそう思う」と回答した人が、「社会に対する満足」感を感じる比率が高く、「満足している」「どちらかと言えば満足している」の比率の合計は 35.6%となっている。そして「どちらかと言えばそうは思わない」(34.8%)、「そう思わない」(34.8%)、「そう思う」(27.4%)、「わからない」(21.8%)と続く。米軍専用施設の集中に対する意識と「社会に対する満足」感には、相互の関連はないように思われる。

図 6-6-10 問 1-16 米軍専用施設の集中に対する意識 × 問 1-12「社会に対する満足」感

